

2. 飯田広域景観エリアの育成方針

1)広域景観育成の基本目標

- ①上伊那から連なる中央・南アルプス、天竜川を軸とした広い伊那谷の眺めと、段丘林や田切に縁取られた段状の生活・農業地のまとまり、中央構造線など複雑な地形が織りなす多彩な自然と農林業の景観を一体的に守り、食や生活文化、レクリエーション、旧街道や山間部などに息づく集落と伝統芸能の景観を育成していく。
- ②飯田市に建設中のリニア新駅は、新たな都市的な拠点として駅周辺やアクセス道路の良質なまち並みの形成や伊那谷・アルプスへの眺めを確保する。

2)広域景観育成の基本方針

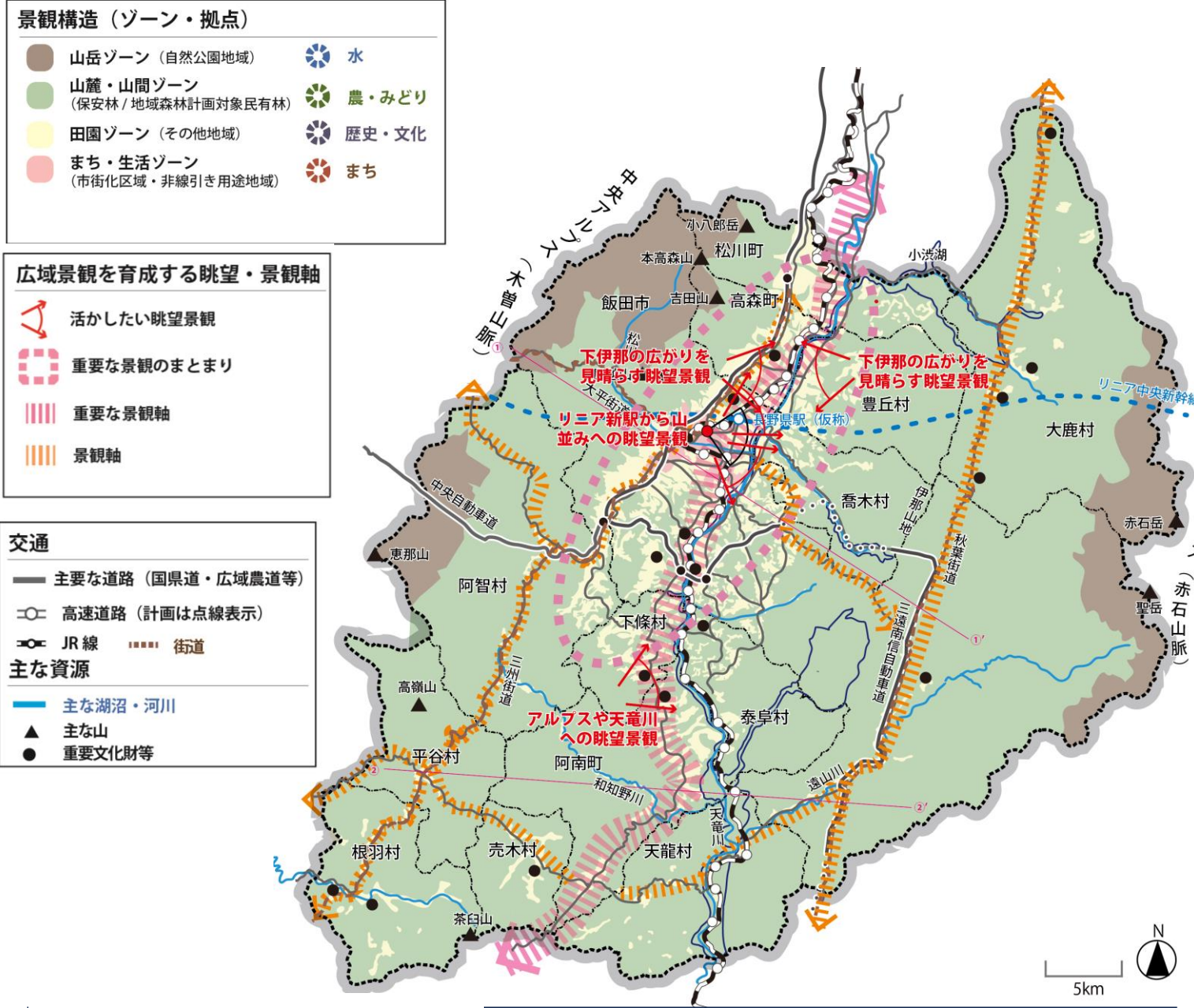
2-1 広域景観を育成するための主要な取組(眺望、景観まとまり、景観軸)

- ① エリアを代表する、活かしたい眺望景観
 - ・ 南・中央アルプスとともに下伊那の広がりを見晴らす東西の眺望景観(例:林公園、月夜平等)
 - ・ リニア新駅から北東～南東方向の山並みへの眺望景観(例:リニア新駅駅舎等)
 - ・ 南部の高台からアルプスや天竜川への眺望景観(例:新井展望公園)
- ② 景観のまとまり(リニア新駅から周辺地域)における広域景観育成を推進する
 - ・ リニア新駅開業に伴う整備地区及び周辺地域の指定を検討
 - ・ 周辺市町村を含めた統一した案内サインの検討
 - ・ 伊那地域を象徴する場としての整備地域内デザインの景観配慮

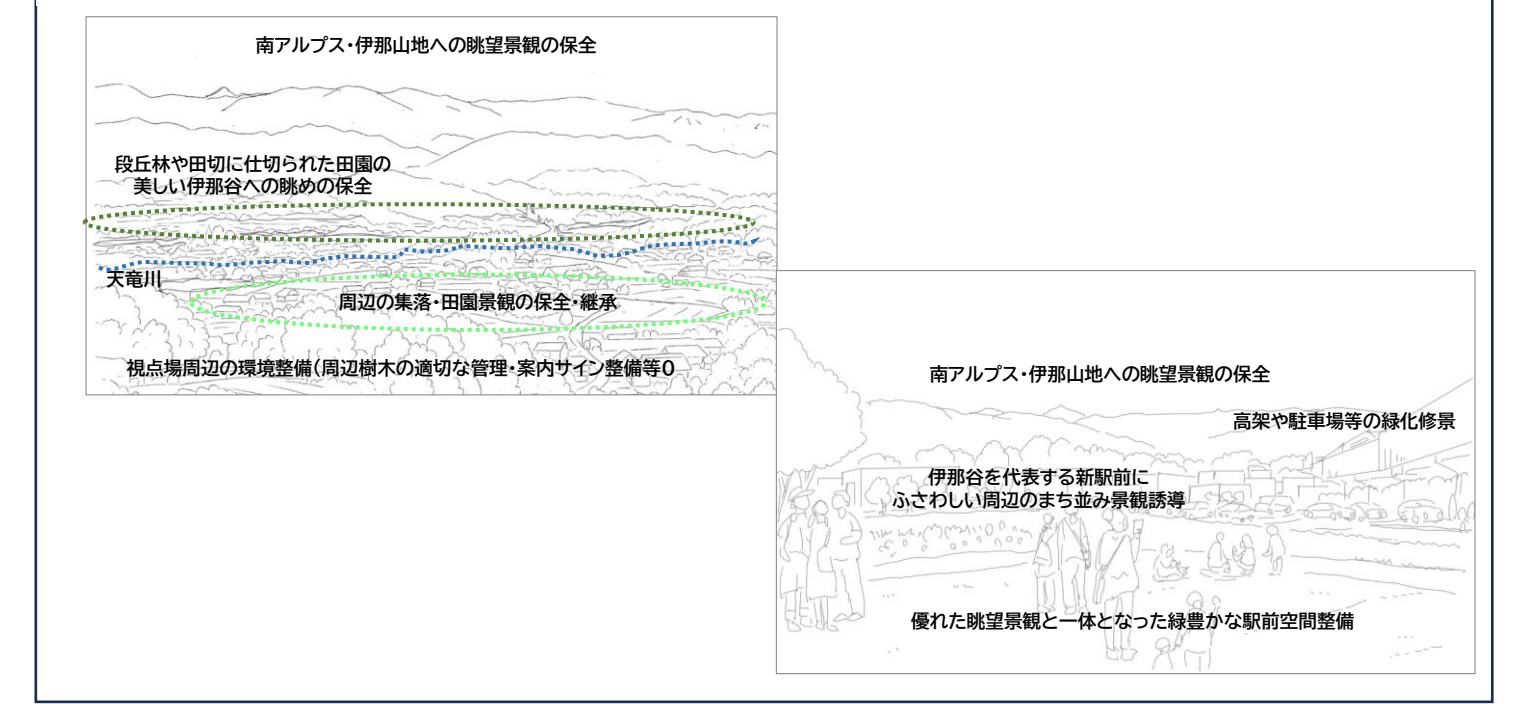
2-2 景観資源を活かしたエリアブランディング

- ① 住民を主体した生活環境や自然・田園環境等の維持向上
 - ・ 地域住民や店舗営業者などで協力して運営してきた既定の住民協定・住民活動の支援および締結地区拡大の誘導
 - ・ 各市町村の土地利用施策や地域住民のまちづくり活動支援と連携した景観育成
- ② 歴史的資源や農業等を活用したブランディング
 - ・ 景観資源活用の情報交換や協力体制構築の場づくり
→エリアの特色ともなっている各地域の伝統芸能のガイド・情報連携やイベント連携など
 - ・ 特産物と景観を結びつけるエリア振興策(情報交換や協力体制構築)の検討
→伊那南部広域農道(南信州フルーツライン)など、生産地の特徴を活かした景観育成など
→農の景観が取り巻く眺望点(アルプスビューファームズ部奈など)を活かした地場食材体験の場づくりなど

広域景観エリアの景観育成方針図



眺望景観を活かした景観育成イメージ





木曽広域景観エリアの景観育成方針

塩尻市(旧檜川村)、上松町、南木曽町、木祖村、王滝村、大桑村、木曽町

1. 木曽広域景観エリアの景観特性

○地形的な特徴

- 中央アルプスと御嶽山系の3000m級の山々に挟まれ、総面積の約93%を森林が占める。
- 木曽川の浸食によって形成された南北約60kmにわたりV字谷地形(木曽谷)が連続する。

○道路・交通(交通景観軸)

- 木曽川沿いの南北にJR中央本線と国道19号が、東西に国道361号が通り、主要な交通軸を形成している。
- 旧中山道が木曽谷の限られた谷地を縫うように連続し、開田高原にかけての山間を通る旧飛騨街道や、霊峰・御嶽山へ続く御嶽古道などが連なる。

○河川・水辺(河川軸)

- 木曽谷の主要な河川である木曽川は、寝覚の床といった景勝地など独特の河川景観を作り出している。
- 山間部では奥木曽湖や自然湖、阿寺溪谷や柿其溪谷など、急峻な自然地形が美しい景観を作り出している。

○歴史・文化(歴史・文化的な景観)

- 室町時代後期には集落の形成が始まり、江戸時代に入り中山道が整備されると、木曽路(旧中山道のうち贄川宿～馬籠宿間の俗称)は交通の要衝として11の宿場町が形成された。
- 重要伝統的建造物群保存地区に指定されている妻籠宿、奈良井宿、木曽平沢をはじめ、木曽路の歴史的なまち並みは重要な観光資源となっている。

○産業の景観

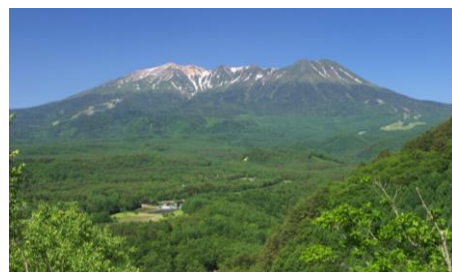
- 開田高原を中心とした高原地帯で栽培されるブランド野菜「御嶽はくさい」などの栽培をはじめ、木曾かぶ(赤かぶ)を乳酸発酵させた伝統的な発酵食品「すんき漬け」など、独自の食文化が根付いている。
- 豊富な森林資源を活かした林業が盛んであり、「木曽ヒノキ」はその美しい景観から日本三大美林に位置付けられている。また、木曽漆器などの地場産業やかつての森林鉄道を転用した観光列車など、製造業や観光業などの地域産業と深い関りがある。
- 豊富な水量と落差の大きい木曽川の地形を生かした水力発電施設が点在し、国の重要文化財や近代化産業遺産に指定されている。

大切にしたい特徴

中央アルプス・御嶽山系への眺め／複雑な地形が織りなす木曽谷・木曽川沿いの自然景観／高原や山間部に広がる農林業の風景／地域で受け継がれてきた地場産業、祭り・民族芸能の景観／旧街道に息づく宿場町の歴史・文化的景観／木曽川沿いの近代遺産

主な視対象(広域的な景観要素)

- 木曽川、寝覚めの床、阿寺溪谷などの水辺景観
- 御嶽山・中央アルプス(木曽山脈)の山並み
- 木曽谷の棚田・開田高原の田園風景
- 旧中山道宿場町のまち並みと背後の山並み
- JR中央線、国道19号、361号の沿道景観



御嶽山と開田高原(木曽町)



赤沢自然休養林と森林鉄道(上松町)



妻籠宿のまち並み(南木曽町)



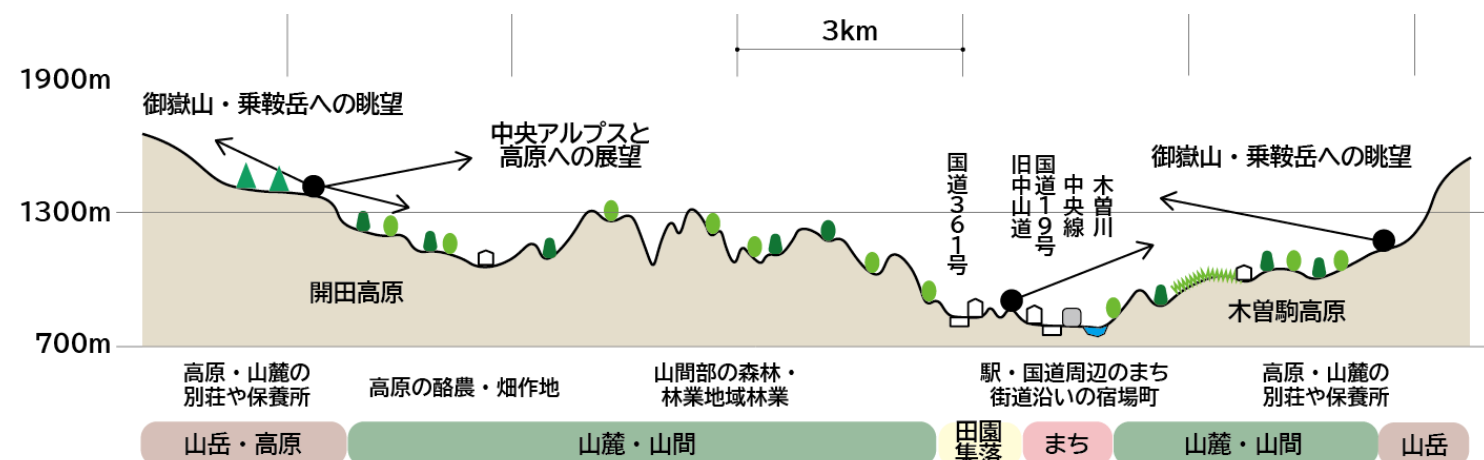
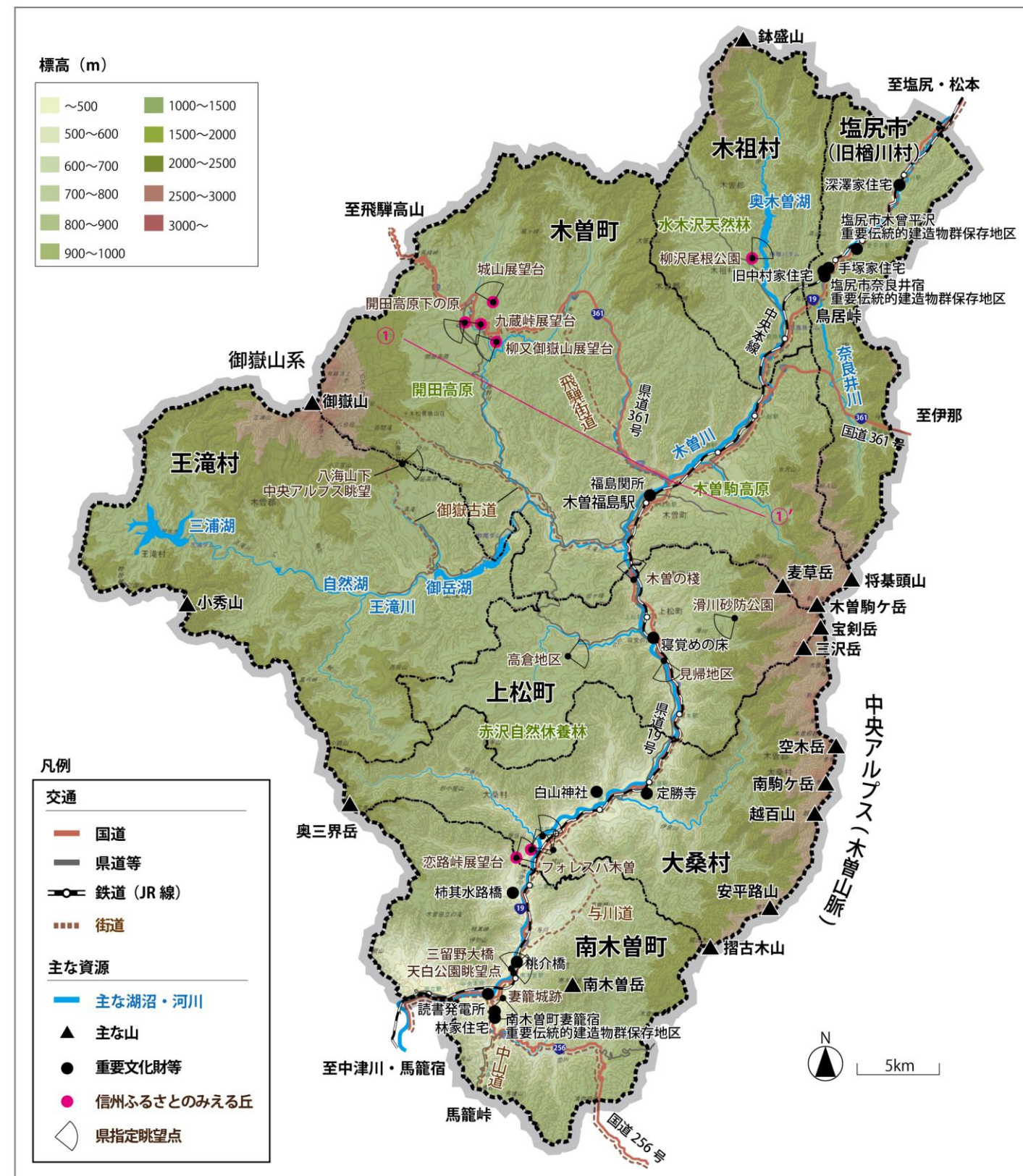
御嶽はくさいの栽培風景(木祖村)



自然湖のネイチャーカヌー(王滝村)



阿寺溪谷(大桑村)



2. 木曽広域景観エリアの育成方針

1) 広域景観育成の基本目標

- ① 本エリアの急峻な地形が織りなす寝覚めの床、阿寺溪谷、自然湖などの自然景観、御嶽山や中央アルプスへの眺め、御嶽山麓に広がる開田高原の景観、旧中山道の宿場町や山間の林業が育んできた歴史・文化的資源の維持・保全・活用を図る
- ② 地域住民の暮らしを豊かにするとともに、既往団体等と連携し、観光や農林業と連携して広域景観としての魅力を高め、本エリアの価値向上や地域の活性化を目指す
- ③ インバウンドを含めた多様な来訪者に親しまれ、観光資源としても重要な場所や資源を周囲の景観と調和するよう良好に保全・創造するとともに、これらをネットワークし、エリアを巡る楽しみを育成する。

2) 広域景観育成の基本方針

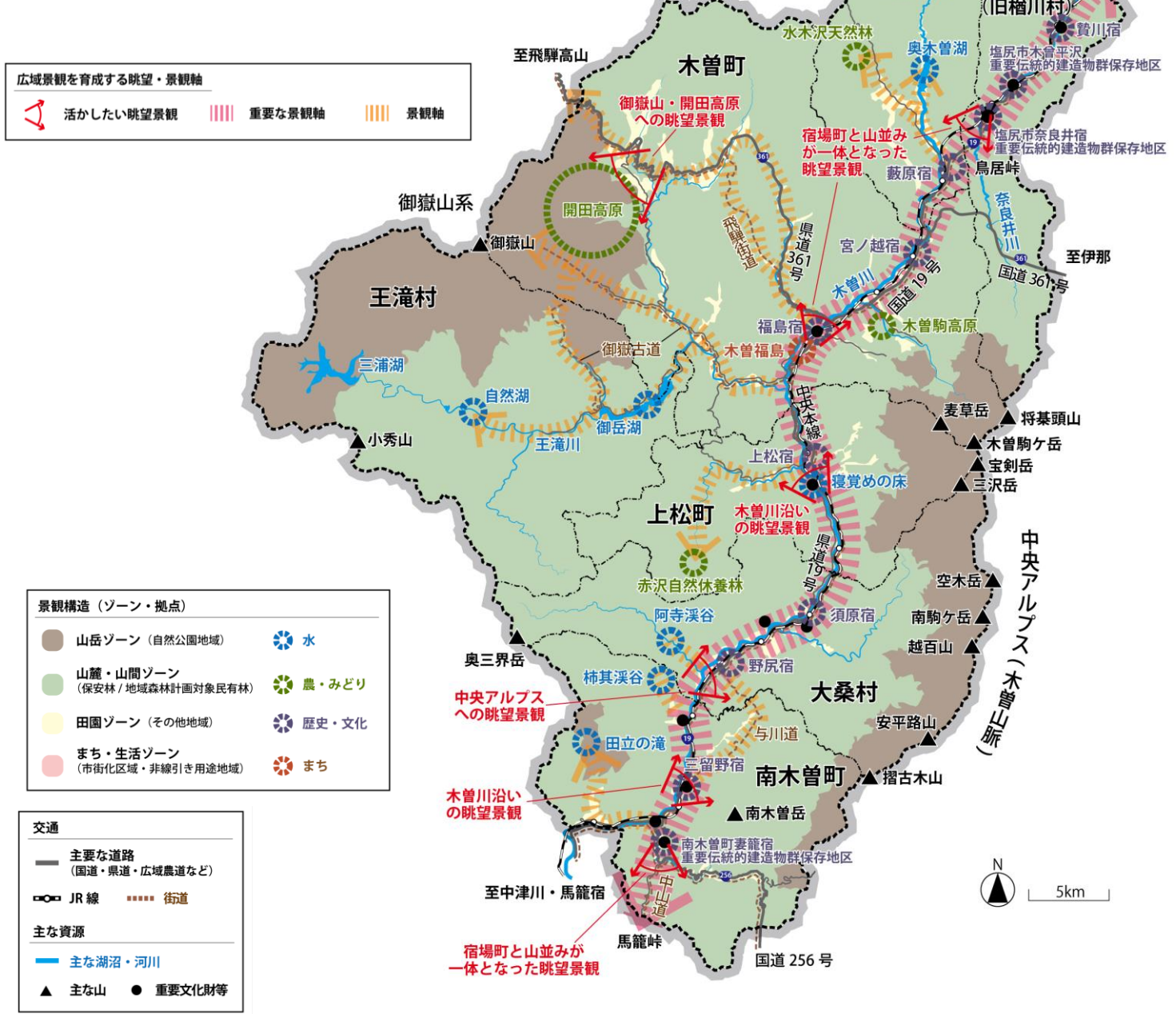
2-1 エリアにおける広域景観を育成するための取組(眺望、景観軸)

- ① エリアを代表する活かしたい眺望景観
 - ・ 御嶽山と山麓の開田高原を望む眺望景観(例;柳又御嶽山展望台、九蔵峠展望台など)
 - ・ 木曽谷から中央アルプスを望む眺望景観(例;恋路峠展望台、阿寺橋など)
 - ・ 木曽川沿いの自然を望む眺望景観(例;天白公園眺望点、寝覚めの床など)
 - ・ 宿場町のまち並みと背後の山並みが一体となった眺望景観(奈良井宿、妻籠宿、福島宿段など)
- ② 重要な景観軸(木曽谷)における広域景観育成を推進する
 - ・ 木曽谷の広域交通軸(JR中央本線、国道19号、旧中山道)における屋外広告物のルールづくり
 - ・ 一体感ある広域景観の育成に向けた建築物・工作物の誘導と景観形成基準の統一化(届出制度)
 - ・ 宿場ごとの伝統的な建築様式・まち並みの保存・継承に係る支援措置
 - ・ 木曽路統一サインの適切な管理・更新
- ③ 景観軸(重要な景観軸と拠点を結ぶ軸)における沿道景観の育成
 - 対象路線:景観拠点へのアクセス道路・街道・河川(国道361号、県道20号、26号、473号、飛騨街道、御嶽古道、与川道、木曽森林鉄道跡、王滝川など)
 - ・ 自然景観と調和した沿道沿いの車窓景観、シークエンス景観の育成
 - ・ 屋外広告物の統一ルールづくり、インバウンドにも対応した案内サインのデザインの統一
 - ・ 街道筋や森林鉄道跡に残る歴史的な資源の保全・活用等

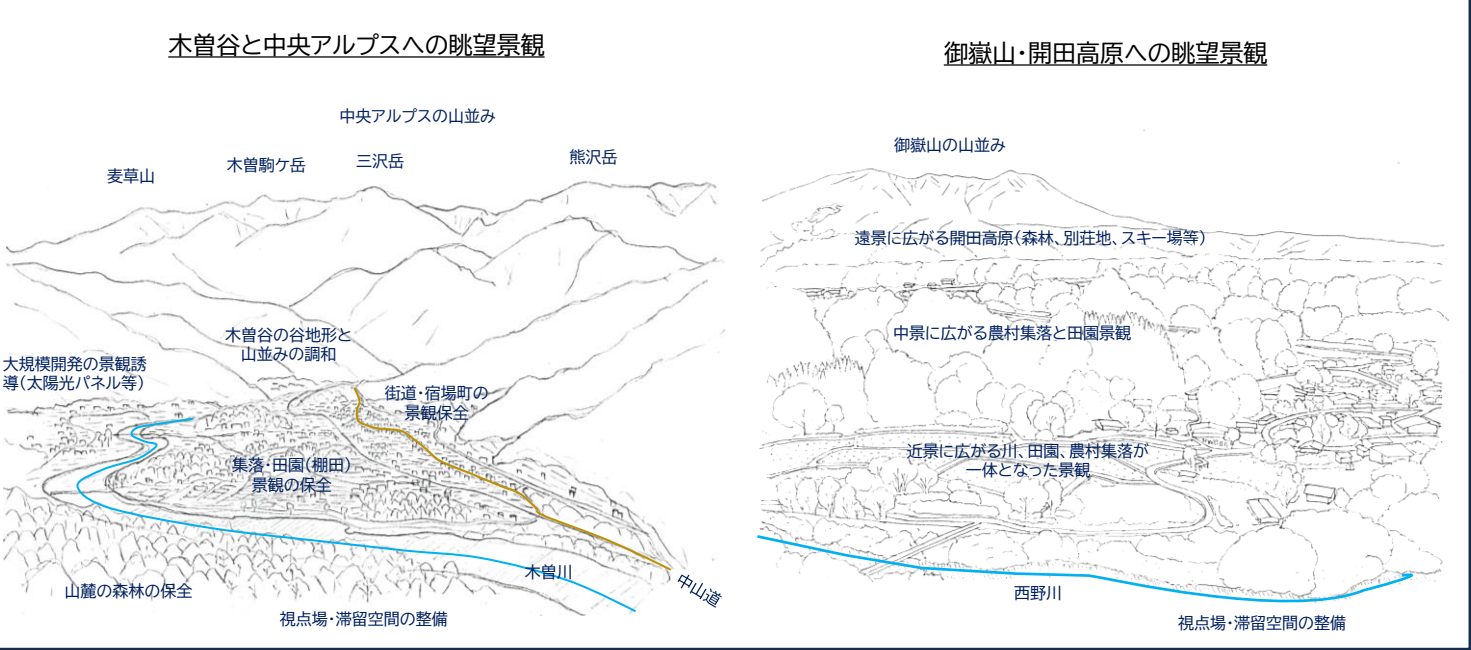
2-2 エリアが有する景観資源を活かしたエリアブランディング

- ① 住民を主体した生活環境や自然・田園環境等の維持向上
 - ・ 既存住民協定地区の協定運営など住民活動の支援と担い手の育成
 - ・ 協定制度を活用した宿場町周辺のまち並み景観育成と住環境の向上(福島宿、宮ノ越宿、須原宿など)
 - ・ 旧中山道沿いに連続する住民協定地区の広域的な連携
- ② 歴史的資源や農業等を活用したブランディング
 - ・ 広域的な協議体を通じた、各町村・地域住民活動の情報交換や協力体制の構築
 - ・ 木曽路に点在する歴史的資源(宿場町、発電所など)や自然景観(山岳、森林、溪谷、湖など)の保全と、これら資源を活用したアクティビティの創出やストーリーづくりによる広域的ツーリズムの推進
 - ・ 木曽エリアに受け継がれてきた文化的景観を継承する担い手の育成・支援と新規ブランド開発による地域振興(開田高原周辺の農業景観や木曽馬の飼育風景、木曽山中の林業や木曽漆器・ろくろ細工など地場産業、木曽踊りや須原ばねそ、らぼっしょに代表される祭り・民俗芸能など)

広域景観エリアの景観育成方針図



眺望景観を活かした景観育成イメージ



松本広域景観エリアの景観育成方針

松本市、塩尻市(旧檜川村地区以外)、麻績村、山形村、朝日村、筑北村

1. 松本広域景観エリアの景観特性

○地形的な特徴と眺望

- 東西を北アルプス(3,000m級)、上高地や美ヶ原(2,000m級)に挟まれた松本平に田園集落地および松本から塩尻にかけて市街地を形成している。
- 北部は聖高原の山間地域として麻績川、安坂川周辺に田園集落地が形成され、西部山麓部には平坦な田畑が広がっている。
- ビューポイントとして「ふるさとの見える(丘)」及び眺望点に塩尻市の高ボッチ高原が指定されており、360度の眺望が開けた山頂からは、北アルプスの山々、諏訪湖、南アルプス、富士山までの景色を楽しむことができる。また、眺望点に指定されていないが、朝日村役場・鉢盛山や唐沢そば集落付近の高台から松本平が望め、聖高原付近からは善光寺平や北アルプスといった、広域景観エリアを超えた眺めを楽しむことができる。

○道路・交通(交通景観軸)

- 国道19号が主要な幹線道路であり、北アルプス方面(国道147号)、高山方面(国道158号)、諏訪方面(国道20号)の4方向を結んでいる。また国道19号と並走する長野自動車道は中央自動車道と上信越自動車道を結んでいる。
- 松本市・塩尻市にまたがる位置に松本空港が整備されており、信州の空の玄関口となっている。

○河川・水辺(河川軸)

- 檜ヶ岳などに源を発する梓川は、田川、鎖川、女鳥羽川などの支流を集め、奈良井川と合流し、犀川となる。
- 北部の麻績村を流れる麻績川は、筑北村を流れる東条川や別所川と合流し、犀川に流入している。

○歴史・文化(歴史・文化的な景観)

- 塩尻市桔梗ヶ原には、縄文時代から平安時代まで人が暮らしていたとされ、日本三大遺跡に数えられている国史跡平出遺跡がある。
- 国宝松本城および城下町には中町通りのまち並みや近代の建築物など歴史を感じさせる資源が分布している。
- 旧道として中山道、千国街道、善光寺街道が挙げられ、社寺や町家など往時を偲ばせる資源が分布している。

○産業の景観

- 塩尻市桔梗ヶ原は、全国的に知られたブドウの産地であり、信州ワインバレーの一翼を担っている。国産ワインの需要拡大を背景として、片丘地区にもブドウ畑の拡大が見られる。
- これらと朝日村のそば、山形村の長芋、波田のスイカなど特産物の農村風景を結ぶ日本アルプスサラダ街道が整備されている。
- 梓川付近では散居村・水稻の栽培風景が広がり、大町・安曇野エリアの屋敷林と空間的つながりがある。

大切にしたい特徴

高台や高原からの北アルプス・松本平への雄大な眺め／山並みと一体となった農村風景や食の風景／国宝松本城・城下の町並みと街道筋に広がる歴史・文化的景観／広域交通軸である国道19号や147号・長野自動車道や鉄道からの車窓の景観

主な視対象(広域的な景観要素)

- 北アルプスの山並み／塩尻周辺から望む八ヶ岳
- 美ヶ原や高ボッチ高原、鉢盛山から望む松本平
- 聖高原付近から望む善光寺平
- 松本城
- 犀川と周辺の田園風景



松本城と北アルプス(松本市)



高ボッチ高原からの眺め(塩尻市)



聖高原と北アルプス(麻績村)



日本アルプスサラダ街道(山形村、朝日村他)



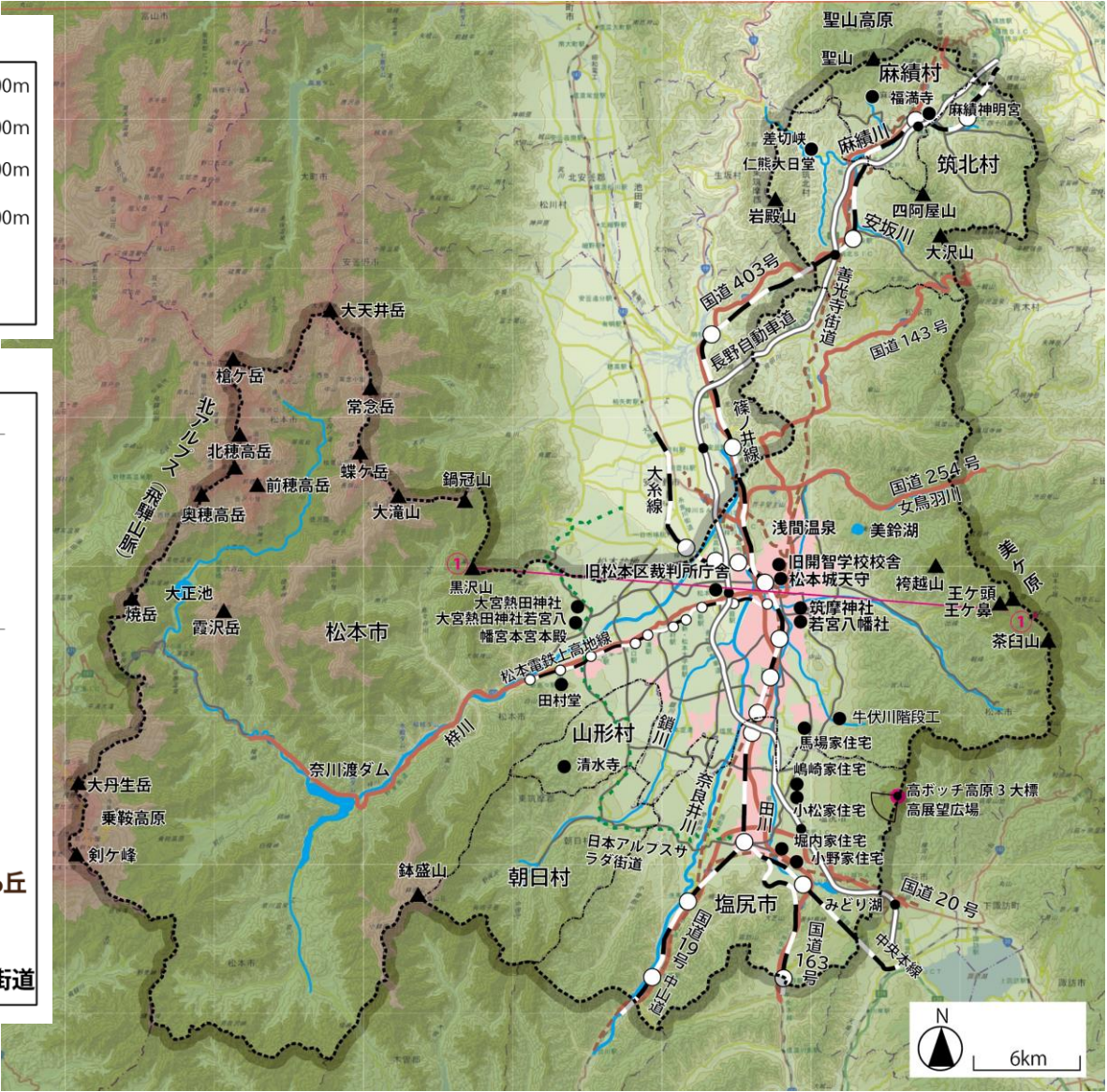
河鹿沢の野沢菜畑(筑北村)

標高

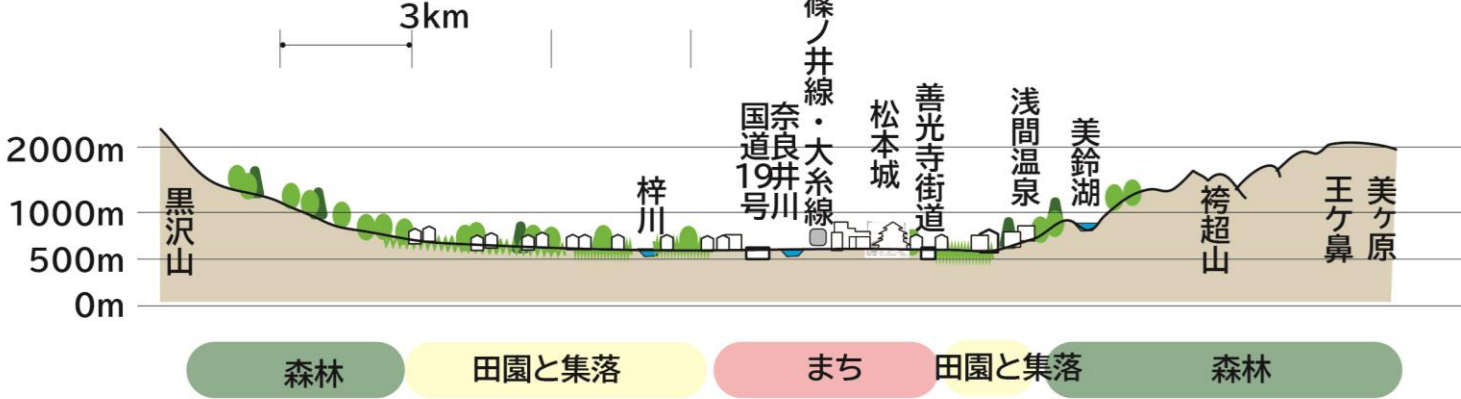
～500m	1000～1500m
500～600m	1500～2000m
600～700m	2000～2500m
700～800m	2500～3000m
800～900m	3000m～
900～1000m	

凡例

交通	
	国道
	県道
	鉄道(JR線)
	街道
主な景観資源	
	主な山
	主な湖沼・河川
	市街地(市街化区域・非線引き用途地域)
	重要文化財等
	信州ふるさとの見える丘
	県指定眺望点
	日本アルプスサラダ街道



①①'断面



2. 松本広域景観エリアの育成方針

1)広域景観育成の基本目標

- ①北アルプス上高地、美ヶ原、聖山高原など多彩な自然環境、安曇野へと連なる松本平を中心として形成されてきた市街地、田園・集落地の一体性やつながり、景観の秩序を維持し、継承していく。
- ②松本市の城下町を中心とした善光寺街道や中山道、千国街道の宿場・街道筋などに残る歴史的資源を活かし、エリアの歴史的特徴を引き立てる。
- ③交通の要衝地として主要道路や鉄道からのシークエンス景観を大切にし、エリアが持つ美しい景観イメージの維持や更なる醸成を図る。
- ④ワインバレーやサラダ街道を活かし、農村風景を食とともに味わう体験ツアーなど、エリアの魅力をさらにPRしていく取組を検討する。

2)広域景観育成の基本方針

2-1 広域景観を育成するための主要な取組(眺望、景観のまとまり、景観軸)

① エリアを代表する、活かしたい眺望景観

- ・北アルプスを中心に松本平と一体となった眺望景観(例:鉢盛山等)
- ・ハヶ岳や遠方の山並みへの眺望景観(例:高ボッチ高原等)
- ・聖高原から善光寺平への眺望景観

② 景観のまとまり(松本平)と景観軸における沿道景観の育成

- ・対象路線:松本平を中心に、中山道や善光寺街道、日本アルプスサラダ街道
→旧道を軸とした歴史・文化的景観、サラダ街道を軸とした農の景観のネットワーク化
→建築物や屋外広告物の統一感を持った規制誘導、広域案内サインの整備
- ・対象路線:国道19号・143号、JR中央本線・篠ノ井線
→シークエンス景観の育成、広域案内サインの整備
→屋外広告物の統一感を持った規制誘導
→巡りを促すハード・ソフトの取組を展開

2-2 エリアで有する景観資源を活かしたエリアブランディング

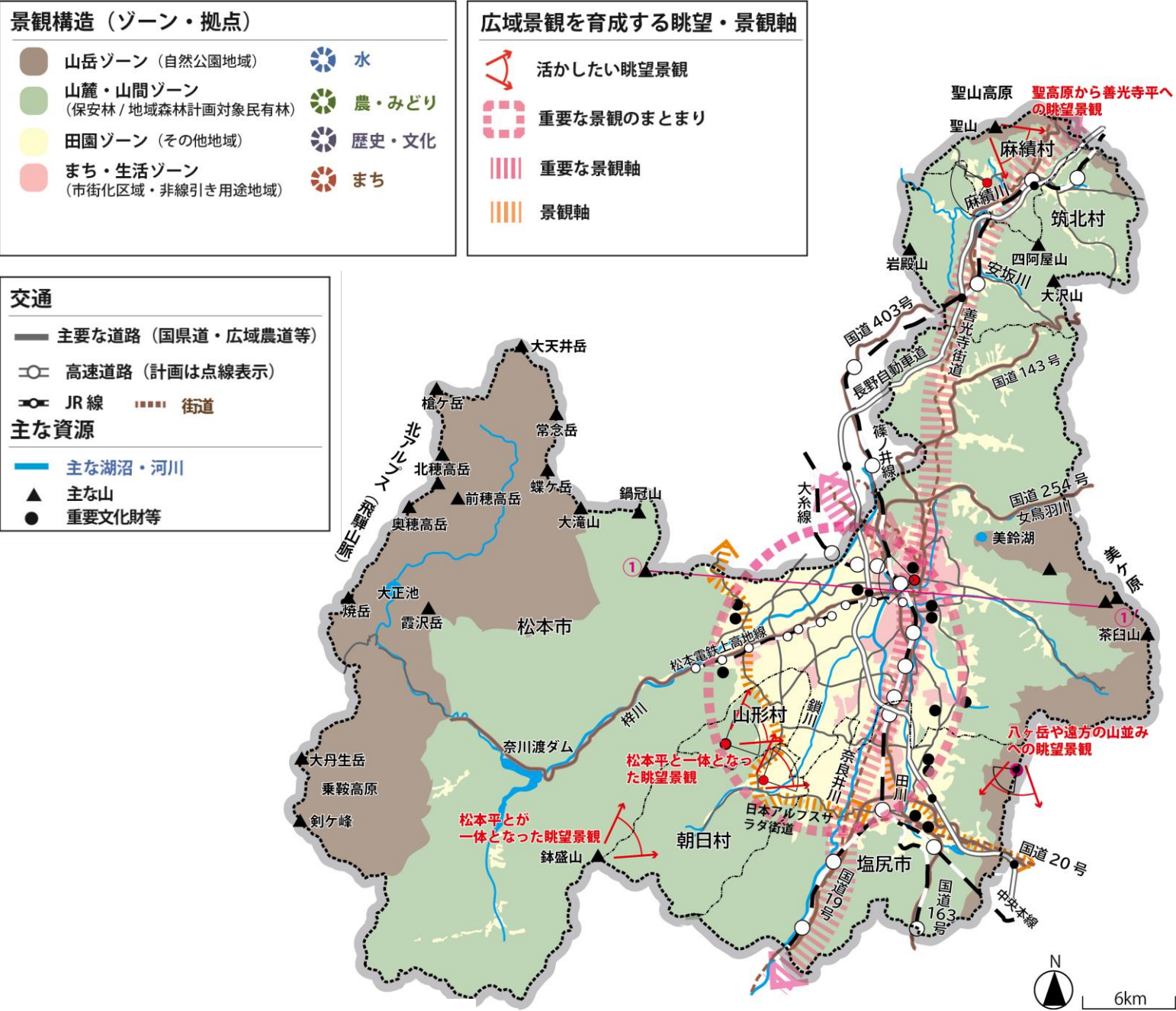
① 住民を主体とした生活環境や自然・田園環境等の維持向上

- ・既定の住民協定・住民活動の支援および締結地区拡大の需要に応じた支援
- ・里山や耕作地などでの新たな宅地開発の動向を踏まえ、各市町村の土地利用施策や地域住民のまちづくり活動支援と連携した景観育成(住民協定活用の支援等)

② 歴史的資源や農業等を活用したブランディング

- ・旧街道の歴史的・文化的な資産を活かした地域間交流等の促進
→交通の要所であった地理的特性、旧街道ごとに見られる役割、複数の宿場や歴史的な建造物等をストーリー化し、歴史的資源の保全や地域間交流の促進を図る(中山道、善光寺街道、千国街道、野麦街道)
→旧街道における統一サイン整備や景観を楽しむ場など新たな価値の検討
- ・自然資源や特産物と景観を結びつけるエリア振興策の検討
→「水」や「農作物」をテーマとした観光や生業と景観とつながりを強化し、新たなエリアの価値を創造

広域景観エリアの景観育成方針図



大町・安曇野広域景観エリアの景観育成方針

(大町市、安曇野市、生坂村、池田町、松川村)

1. 大町・安曇野広域景観エリアの景観特性

○地形的な特徴と眺望

- 西は北アルプス 3000m級と前衛2,000m級の山(西山)が、東は中山山地、千曲山地(東山)が連なり、安曇野と呼ばれる松本盆地北部の低地部を囲んでいる。
- これら東西の山並みを背景に、屋敷林・田園風景や果樹園、河川などの眺望や、上生坂の集落を望む眺望などが「ふるさとの見える(丘)」に指定されている。

○道路・交通(交通景観軸)

- 高瀬川流域は国道147号、県道51号、オリンピック道路、JR大糸線など南北の交通軸と、県道などの東西道路で構成され、犀川流域では国道19号、国道403号、JR篠ノ井線が地域の交通軸を担っている。

○河川・水辺(河川軸)

- 槍ヶ岳等を水源とする高瀬川がエリア中央部を南北に流れ、梓川と合流して犀川となり、生坂村を經由し、善光寺平方面に流下している。
- 犀川と麻績川との合流点にある山清路溪谷は信濃自然100選にも選ばれる景勝地となっている。

○歴史・文化(歴史・文化的な景観)

- 江戸期の拾ヶ堰(1816)整備など新田開発が進み、豊富な湧水を背景に、近代以降わさびやニジマス養殖などの特産も開発された。
- 千国街道(塩の道)沿いの成相新田宿、保高宿、池田宿や大町宿に町家・蔵などが点在し、石碑や水路などに往事をしのぶことができる。
- 国指定の文化財として大町市の仁科神明宮(国宝)、盛蓮寺(重要文化財)、安曇野市の松尾寺(重要文化財)などがある。
- エリア内に多く点在する道祖神はその数と共に双体道祖神の愛らしさなどが固有の景観資源となっている。

○産業の景観

- 低地部に広がる田園と集落・屋敷林の連なりは山麓部の果樹園や山並みと一体となって安曇野を象徴する風景となっている。
- 松川村の酒米、安曇野市西部の烏川扇状地や神戸原扇状地などでりんごなどの栽培、高瀬川沿いなどでのわさび栽培、生坂村のブドウ栽培、北アルプス・安曇野ワインバレー特区(大町市・安曇野市・池田町)として池田町の東山傾斜地などでワイン用ブドウの栽培など、気候風土を活かした多様な農作物の栽培が見られる。

大切にしたい特徴

北アルプスと安曇野の田園風景や屋敷林の眺め／地下水や水田開発により生まれた複数の湧水やわさび田、レクリエーションの景観／旧街道や集落に歴史的な資源や暮らしの文化／梓橋で分岐する高瀬川流域の景観と、犀川流域の明科～生坂村へと連なる景観とのつながり

主な視対象(広域的な景観要素)

- ・常念岳、大天井、有明山、蓮華岳、白馬三山など雄大な北アルプスの連なり
- ・低地の田園・集落と屋敷林や山麓の果樹園の風景
- ・梓川、高瀬川、犀川



早春賦歌碑公園からの眺め(安曇野市)



あずみ野クラフトパークからの眺め(池田市)



棚の平公園からの眺め(生坂村)



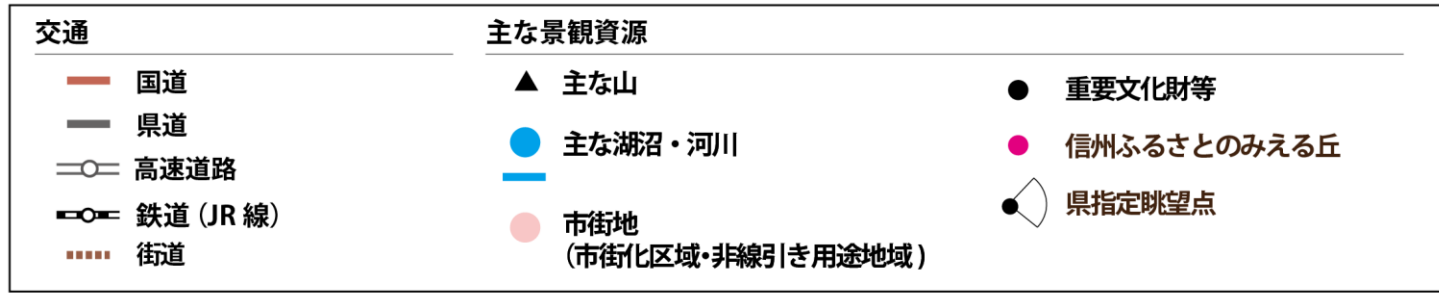
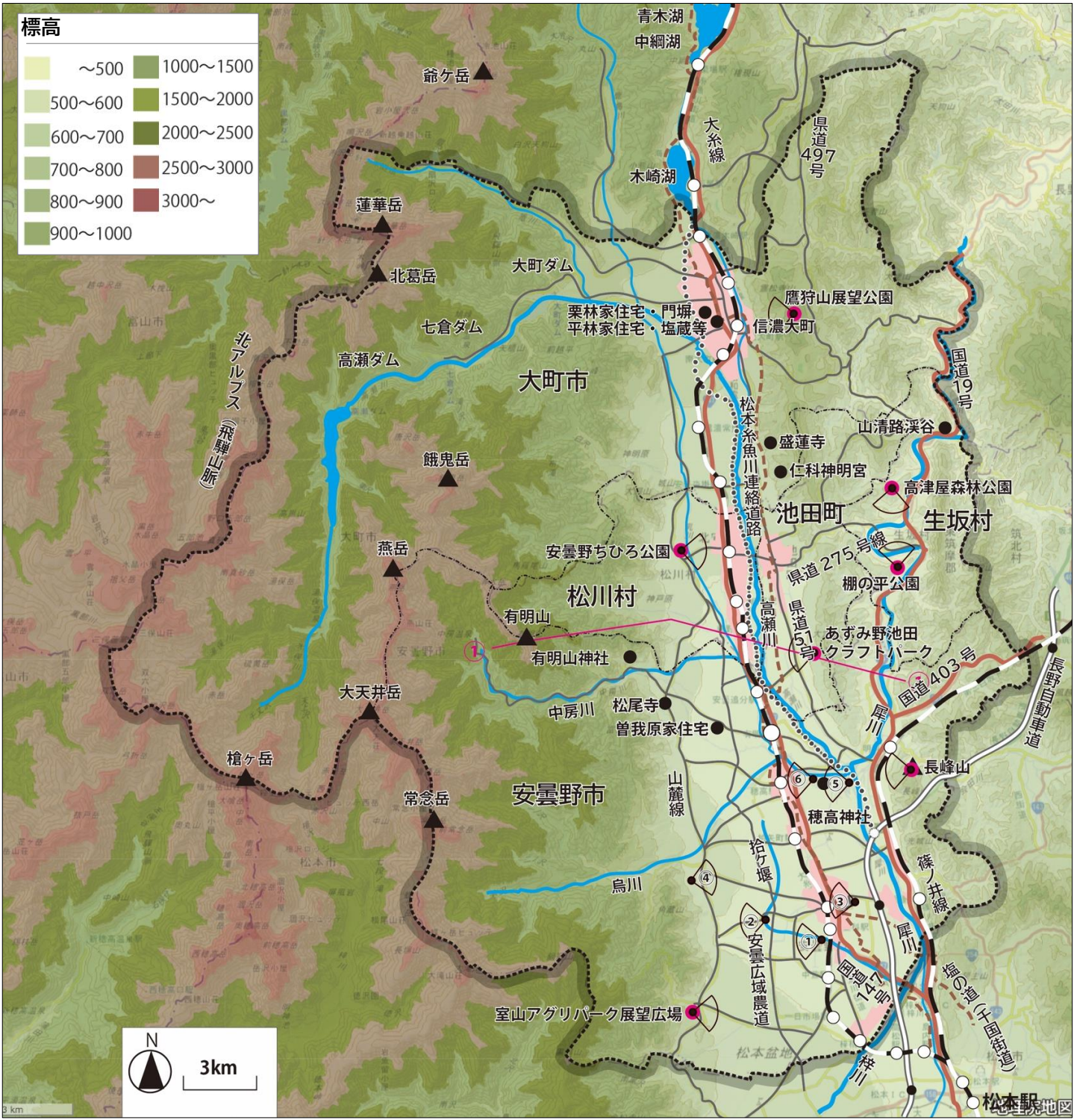
安曇野湧水群(安曇野市)



大町宿(大町市)

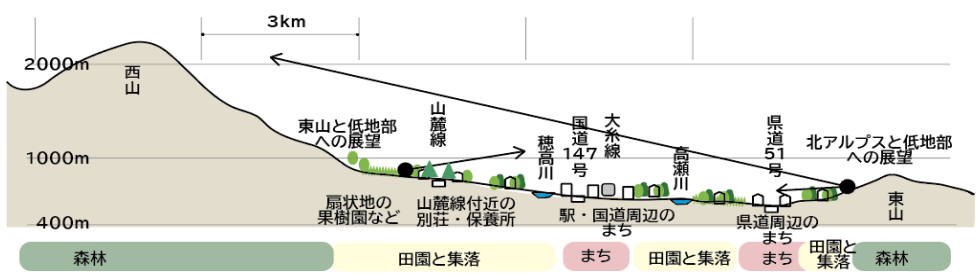


曽根原家住宅(安曇野市)



県指定眺望点番号別対照地点名

- ①拾ヶ堰てんしゃひろば
- ②道の駅 アルプス安曇野ほりがねの里
- ③安曇野市役所
- ④国営アルプスあづみの公園「堀金・穂高地区」
- ⑤等々力橋付近
- ⑥早春賦歌碑公園



白馬バレー広域景観エリアの景観育成方針

大町市、白馬村、小谷村

1. 白馬バレー広域景観エリアの景観特性

○地形的な特徴と眺望

- 西を北アルプス、東を小谷山地に囲まれた白馬盆地とで構成され、随所より北アルプス3000m級の山々の連なりを間近に望む山岳都市の景観を有する。
- ジャンプ場等のオリンピック施設に代表される自然景観を生かしたレクリエーション景観が広がっている。
- 夏場でも雪渓の残る山岳と、前景に見られる季節の彩りとの対比が特徴的であり、県内で本エリア内のみ氷河が確認されている4つの雪渓(カクネ里、唐松沢、杓子沢、不帰沢)はのうち、杓子沢氷河はまちなかからも眺められる身近なものであり、山岳ツーリズムの推進や地域学習・環境教育としての活用も期待される。
- 県指定の「ふるさとの見える(丘)」や「眺望点」は北アルプス山麓のスキー場や山麓の公園が選ばれ、低地の田園やまち・集落、川を主題としている他、低地部からまち並み越しに望む北アルプスなど、地域の生活圏と山の眺望の組み合わせで構成されている。

○道路・交通(交通景観軸)

- 盆地中央部をエリアの主要な交通動線である大系線や国道148号が通る他、県道長野大町線や白馬美麻線も長野駅からこのエリアのアプローチルートとして重要である。
- 歴史的な交通軸として千国街道(塩の道)が大系線至近を南北に通り、荷継ぎ町として栄えた大町宿、牛と牛方が一緒に寝泊まりしたとされる牛方宿など、随所にその面影が見られる。

○河川・水辺(河川軸)

- エリア中央を流れる姫川は糸魚川・静岡構造線(フォッサマグナ)の西縁に沿って流れている。その水源は国道・民家至近の白馬村の親海湿原の湧水であり、姫川源流自然探勝園として公開されている。
- 大町市北部にある仁科三湖(青木湖、木崎湖、中綱湖)は湖底からの湧水による透明度を誇り、それぞれ特色ある水辺アクティビティが充実し、人々に親しまれている。

○歴史・文化(歴史・文化的な景観)

- 歴史的な交通軸として千国街道(塩の道)が大系線至近を南北に通り、その歴史は縄文時代、白馬一帯で産出されたヒスイの交易にあるとされる。荷継ぎ町として栄えた大町宿、牛と牛方が一緒に寝泊まりしたとされる牛方宿など、随所にその面影が見られる。
- 白馬村の東部山間部には重要伝統的建造物群保存地区に選定された青鬼集落があり、棚田や青鬼堰とともに昔ながらの山村集落の姿を今に伝えている。

○産業の景観

- 低地部や山間部などで、高冷な気候風土に根ざした、多様な特産品(紫米、雪中キャベツ、雪下ニンジン等)が栽培されている。
- 北アルプス山麓部一体は長野五輪会場となるなど国内屈指のスキーリゾート地として近代以降より発展し、近年では通年型のリゾート提供地として一層の発展のため、エリア内各市村および地元観光団体による観光DMO「HAKUBAVALLEYTOURISM」が設立された。
- 国内外のツーリスト向けの発信を行っており、通年型及び滞在型の観光戦略や、自然・歴史的環境の維持などをコンセプトとして広域的な情報発信やエリア内の整備を行っている。
- また「HAKUBAVALLEY八景」という景観を主題とした取り組みも見られる。

大切にしたい特徴

遠景に望む北アルプス白馬連峰、立山連峰への眺め／フォッサマグナが生み出す変化に富んだ地形／自然景観を生かしたレクリエーションの景観(仁科三湖、スキー場等)／平地部の中央を通る姫川、国道148号などのエリアの骨格軸／千国街道(塩の道)や集落に点在する歴史的な資源や暮らしの文化

主な視対象(広域的な景観要素)

- 白馬駅前や、まちなか、里やリゾート地から望む、北アルプスの山並み
- スキー場や丘の上から望むまちや里、田園
- 国道148号や大系線から望む、仁科三湖と山並み



白馬五竜スキー場、地蔵頭からの眺め(白馬村)



伝行山展望公園からの眺め(白馬村)



眺望の郷からの眺め(小谷村)



どんぶり展望台からの眺め(白馬村)



青木湖(大町市)



牛方宿(小谷村)



青鬼伝建地区と棚田(白馬村)



岩岳グリーンパーク(白馬村)

凡例

交通

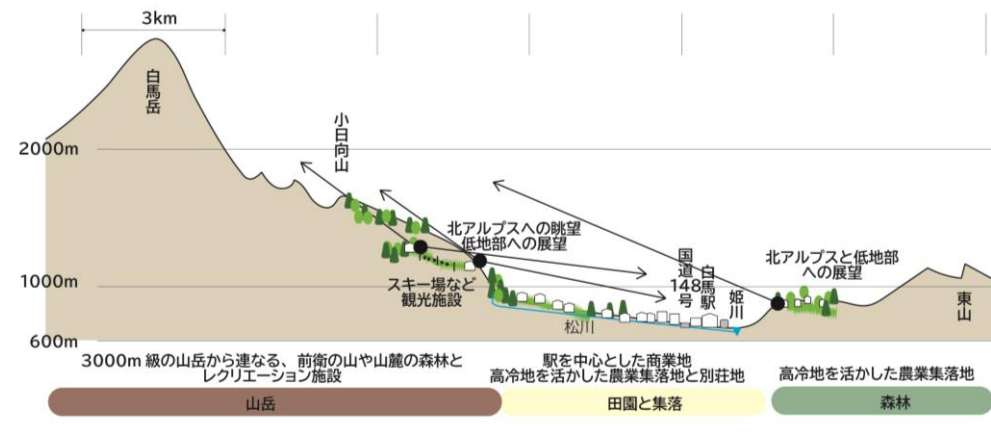
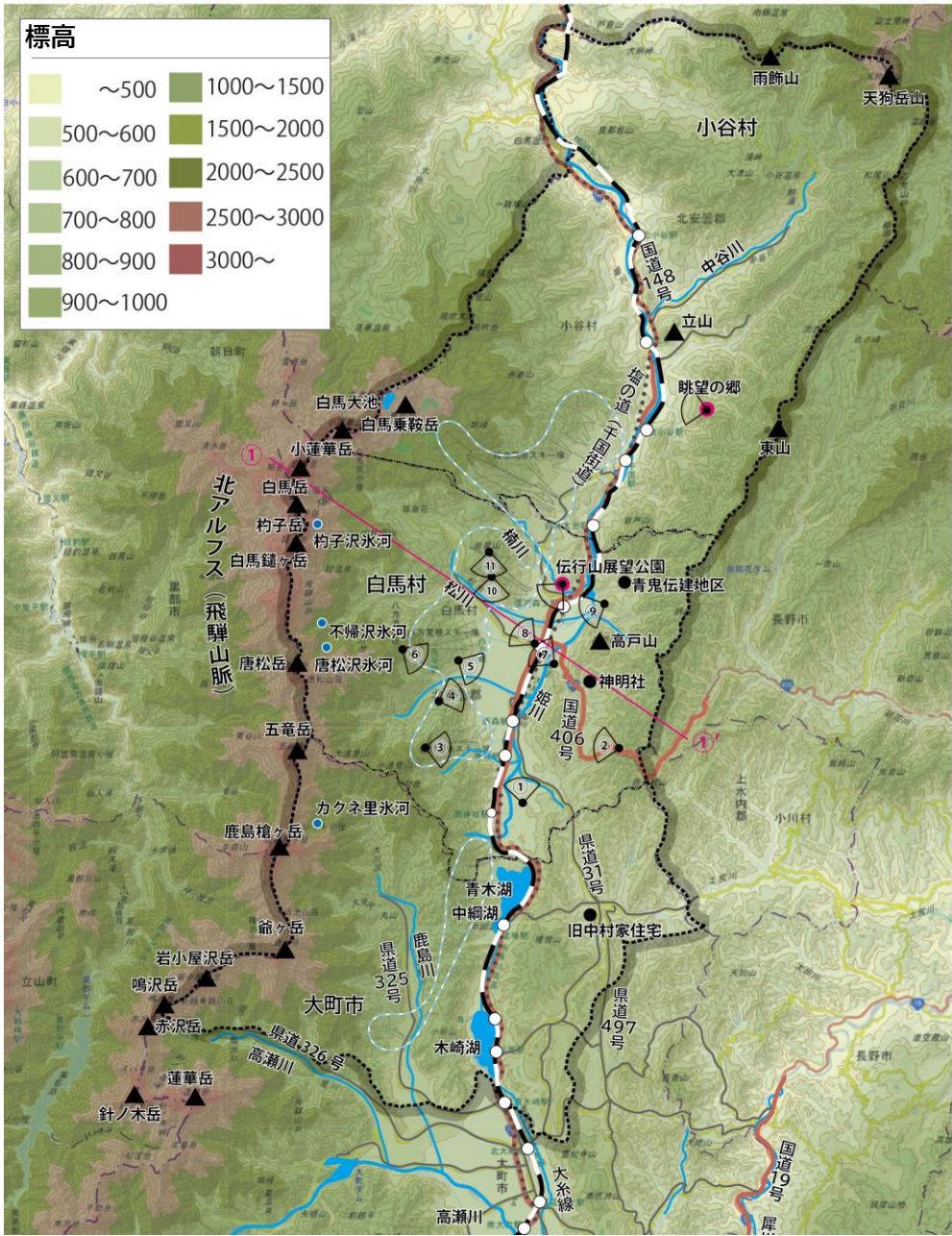
- 国道
- 県道
- 鉄道(JR線)
- 街道

凡例

- ▲ 主な山
- 主な湖沼・河川
- 市街地(市街化区域・非線引き用途地域)
- 重要文化財等
- 信州ふるさとのみえる丘
- 県指定眺望点

県指定眺望点番号別対照地点名

- ①奈良井駐車場
- ②白沢洞門
- ③白馬五竜スキー場 地蔵頭
- ④白馬47スキー場ゴンドラ山頂駅
- ⑤白馬ジャンプ競技場
- ⑥白馬八方尾根スキー場ゴンドラ山頂駅
- ⑦藤平
- ⑧白馬駅前
- ⑨野平
- ⑩どんぶり展望台
- ⑪白馬岩岳スノーフィールドゴンドラ山頂駅
- ⑫縄文の丘フルーツパーク
- ⑬茶臼山公園
- ⑭九十九公園
- ⑮城山公園



2. 白馬バレー広域景観エリアの景観育成方針

1)広域景観育成の基本目標

- ① 北アルプスの連なりへの眺めと、地域生活文化の中に観光リゾート需要を受け止めつつ丁寧に形成されてきたまち・里の景観を守り育て、日本屈指の山岳観光地としての姿を地域で共有していく。
- ② 国道148号や県道白馬美麻線、大系線など、エリアの魅力を感じる白馬バレーへのアプローチ動線からの眺めを活かし、広域的にエリアの魅力を体験できる景観育成を図る。

2)広域景観育成の基本方針

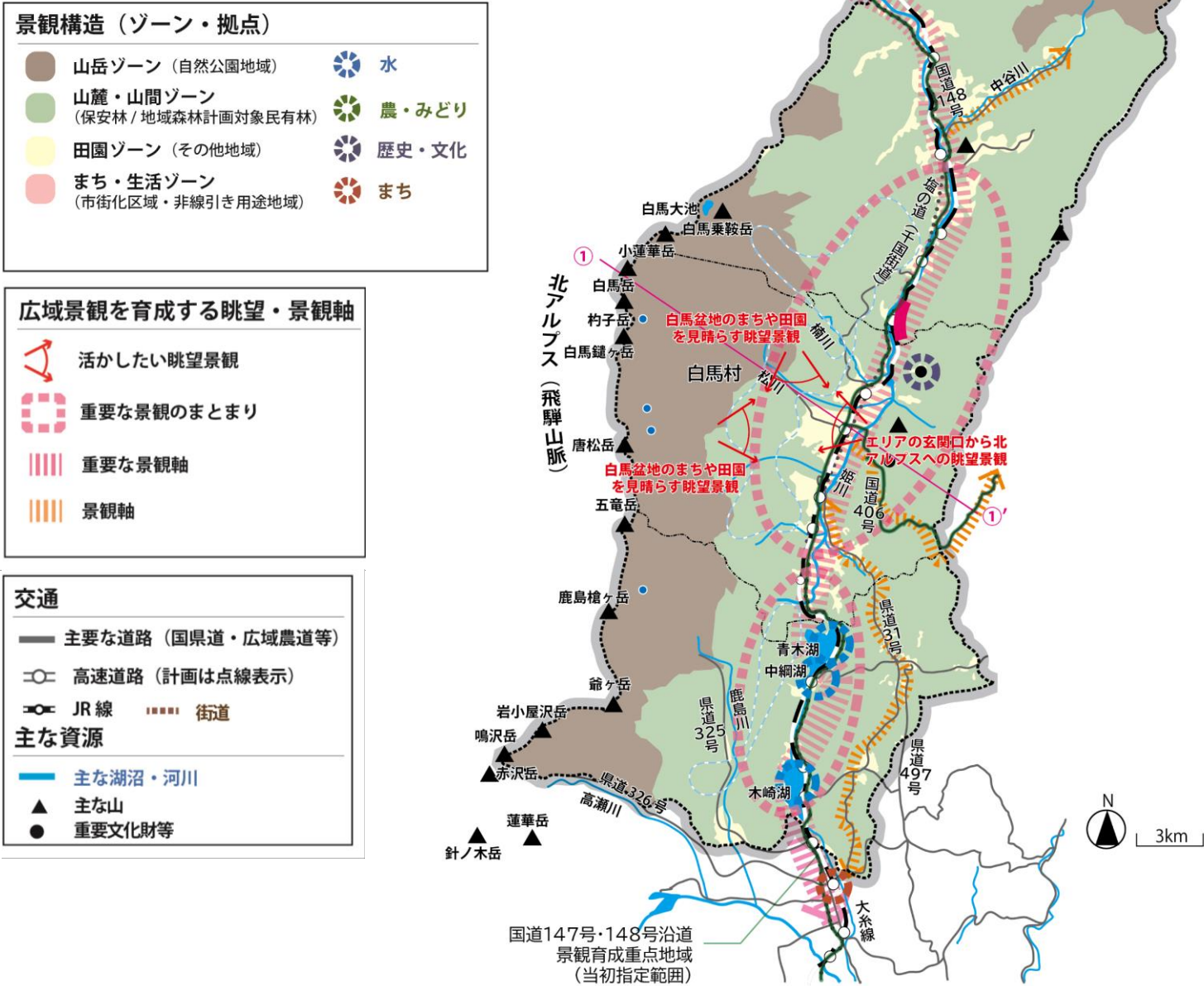
2-1 広域景観を育成するための主要な取組(眺望、景観拠点、景観軸)

- ① エリアを代表する、活かしたい眺望景観
 - ・白馬盆地のまちや田園を見晴らす眺望景観(例:白馬八方尾根スキー場 Gondola 山頂駅、どんぐり公園等)
 - ・エリアの玄関口から北アルプスへの眺望景観(例:白馬駅前等)
- ② 景観のまとまり(仁科三湖から白馬駅周辺の一体)における広域景観育成を推進する
 - ・大系線車窓や各駅前、国道148号や、県道長野大町線、白馬美麻線などエリアへのアプローチ道路や主要交通軸などから山並みや田園への眺めに配慮した建築物や屋外広告物の誘導
 - ・空地を利用した工作物等における景観配慮(太陽光発電施設等)
 - ・周辺市町村を含めた統一した案内サインの検討
- ③ 景観軸における沿道景観の育成(国道147号・148号沿道景観育成重点地域を含む)
 - ・対象路線:北アルプスや姫川と並走する幹線道路等
⇒国道148号、松本糸魚川道路、JR大系線、塩の道(千国街道)
 - ・建築物や屋外広告物の誘導等に関する景観育成基準の統一化
(長野県景観育成計画・大町市景観計画(案)、白馬村景観計画、小谷村景観づくり計画の調整)
 - ・屋外広告物への対応(規制地域の検討や統一した案内サインの検討)

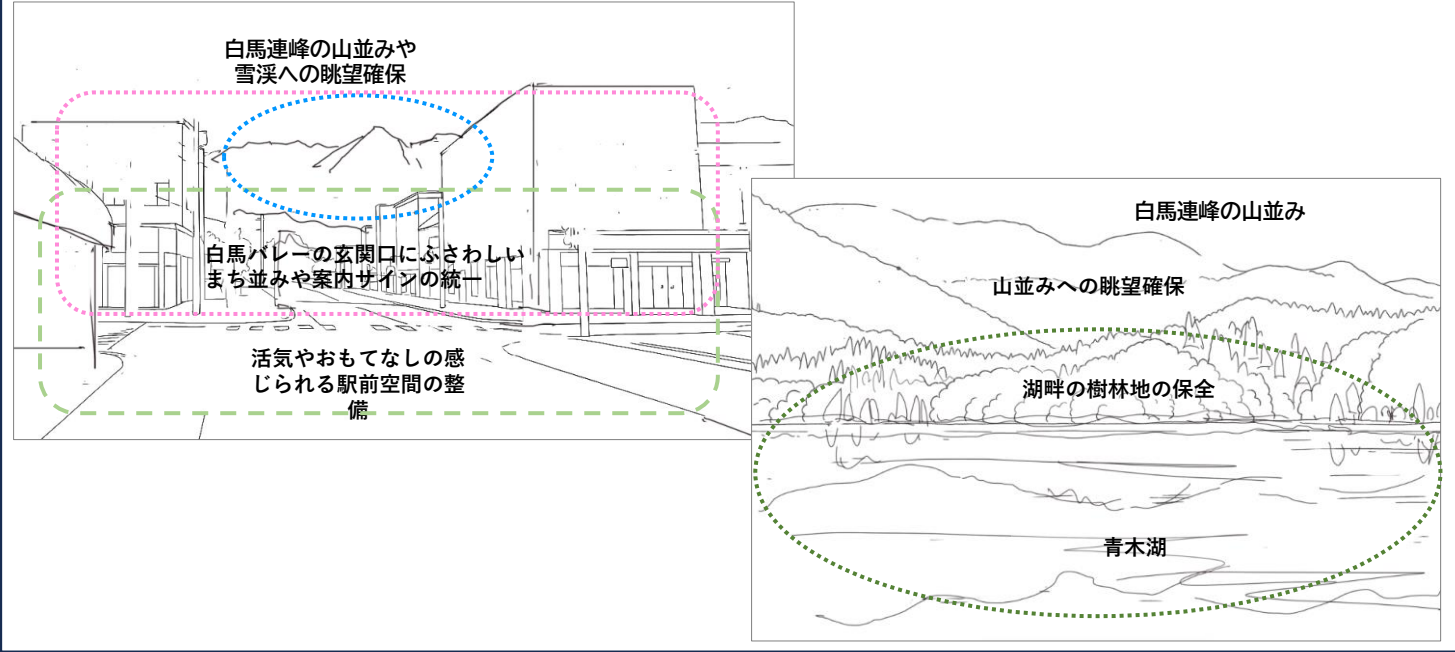
2-2 エリアで有する景観資源を活かしたエリアブランディング

- ① 住民を主体した生活環境や自然・田園環境等の維持向上
 - ・地域住民や店舗業者などで協力して運営してきた既定の住民協定・住民活動の支援および締結を検討する地区への検討支援
 - ・各市町村の土地利用施策や地域住民のまちづくり活動支援と連携した景観育成
- ② 歴史的資源や農業等を活用したブランディング
 - ・景観資源活用の情報交換や協力体制構築の場づくり
→各市村や住民主体による千国街道の町家・蔵・塩倉や社寺など、歴史・文化資源のめぐるガイドツアー・交流会の情報連携やイベント連携(大町・安曇野エリアとの連携も検討)
 - ・特産物と景観を結びつけるエリア振興策(情報交換や協力体制構築)の検討
→気候風土に根ざした特産品(紫米、雪中キャベツ、雪下ニンジン等)と農業集落景観を結びつけた、食と景観の体験プログラム等

広域景観エリアの景観育成方針図



眺望景観を活かした景観育成イメージ



長野広域景観エリアの景観育成方針

長野市、須坂市、千曲市、小布施町、高山村、信濃町、小川村、飯綱町

1. 長野広域景観エリアの景観特性

○地形的な特徴と眺望

- 千曲川や犀川の扇状地である長野盆地（善光寺平）を中心に周辺の北信五岳等の山地、大小の河川が流れ込んでできた細かな谷津、地すべり等で形成された緩やかな斜面など、変化に富んだ地形を有する。
- 都市と農山村・自然が共存するエリアであり、高原エリアに連なる丘陵地は、古墳や城址等が形成された場所も多く、山並みに囲まれた市街地、田園風景など高低差を感じる景観を望む。善光寺平の夜景も親しまれている。
- エリアを巡る河川（橋梁、沿川のサイクリングロード、水辺アクティビティ）や多様な交通軸（新幹線、高速道路、幹線道路）を移動しながらシークエンス景観を楽しむことができることも特徴である。

○道路・交通（交通景観軸）

- 善光寺平を中心に、JR北陸新幹線、鉄道各線、上信越自動車道、国道403号、18号、犀川沿いの国道19号など広域的な交通網が形成され、首都圏、北陸圏との近接性が高い。
- 佐渡の金銀の輸送に使われた北国街道をはじめ、各地と善光寺周辺を結ぶ信仰の道である街道筋が多くあり、宿場町が形成された。

○河川・水辺（河川軸）

- 大規模な扇状地を形成する千曲川や犀川、そこに流れる中小河川、農業用水路が張り巡らされている。千曲川では、沿川自治体が協働し、親水環境整備や水辺アクティビティの充実、広域観光ルートの構築などに取り組んでいる。
- 池沼、滝、湧水など多様な地形がもたらす水の景観が随所にみられ、北には県内最大の貯水量を誇る天然湖である野尻湖があり、透明な水の広大な景観がみられる。

○歴史・文化（歴史・文化的な景観）

- 約1400年前に創建されたと伝わる善光寺と門前町、各地と善光寺周辺を結ぶ街道筋が巡り、かつての街道沿いには宿場町や舟運で栄えた趣が残るまち並みや石仏などがみられる。
- 山岳信仰や古い歴史を有する社寺、宿坊が連なるまち並み、製糸業で栄えた蔵のまち並み、多くの城跡や社寺、温泉街、おやきをはじめとする固有の食文化など多様な歴史・文化的な景観を有している。

○産業の景観

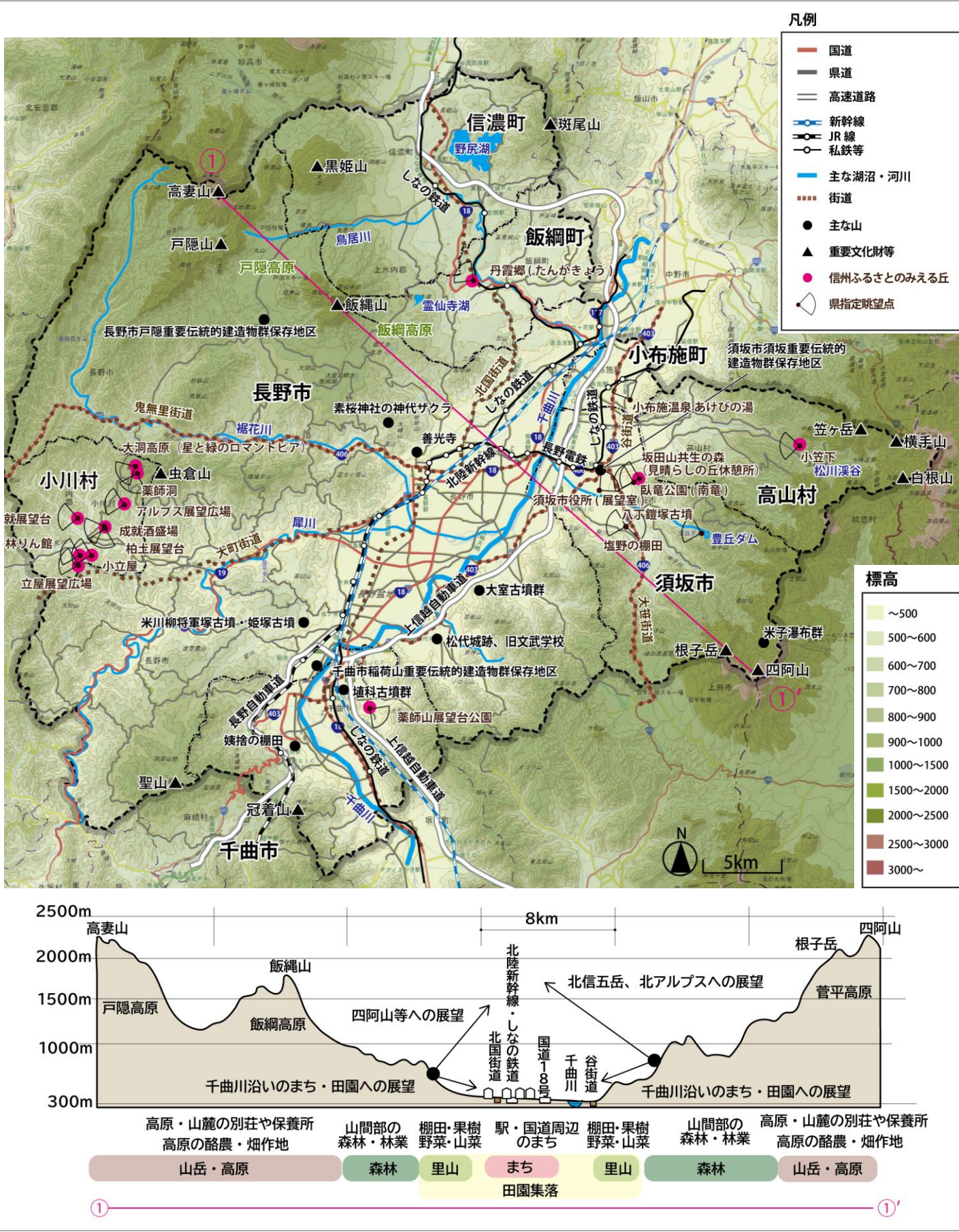
- 善光寺平を中心に政治・経済・文化・教育等の機能が集積し、多様な産業が栄えている。特に機械・電気・食品をはじめとした製造業は地域経済を牽引している。
- 豊かな地形と水によって、盆地に広がる水田、谷津田、山間地の棚田などの多様な田園風景が形成されている。また、日照や昼夜の気候差によって果樹栽培が盛んであり、市場性・生産量ともに県内随一である。
- 交通環境の良さ、自然環境や果樹栽培、歴史的な資源を活かした観光業も盛んで、河川や水辺、北信五岳や四阿山などが形成する高原エリアなど、四季を通じて多様なアクティビティが体験できる環境に恵まれている。

大切にしたい特徴

北信五岳、北アルプスをはじめとする山々への眺め／千曲川、犀川と中小の河川が形成する水のネットワーク／歴史のシンボルである善光寺と各地を結ぶ街道筋の景観／変化に富んだ地形に寄り添う農業景観（田園・果樹・高原野菜や酪農など）／野尻湖や高原などの四季を通じて様々な体験ができる豊かな自然／利便性の高い交通環境

主な視対象（広域的な景観要素）

- 北信五岳（妙高山、黒姫山、飯縄山、戸隠山、斑尾山）
- 北アルプス
- 善光寺平を囲む山々の重なり
- 千曲川、犀川
- 河川周辺の市街地、田園集落、果樹等の栽培風景
- 鉄道（しのの鉄道・長野電鉄・新幹線）



別名「芙蓉湖」とも呼ばれる野尻湖（信濃町）



丹霞郷と北信五岳への眺望（飯綱町）



栗の小径（小布施町）



樹齢250年以上のしだれ桜と北信五岳への眺望（高山村）



須坂祇園まつりと蔵の町並み（須坂市）



善光寺の石畳（長野市）



北アルプスへの眺望と里の風景（小川村）



姨捨の棚田（千曲市）

2. 長野広域景観エリアの育成方針

1) 広域景観育成の基本目標

- ① 都市と自然・田園が高低差のある多様な地形の中で共存する特徴を活かす。
- ② 各地の歴史・文化的資源を良好に保全・創出するとともに、河川アクティビティやサイクリング、交通軸の豊かさなど、広域ネットワークにおける取組とも連携し、個性の異なる土地を巡る楽しみを育てる。
- ③ 多様な地形に寄り添い展開するバリエーション豊かな果樹や野菜栽培、水田は、エリア共通の景観のベースとして、実りの季節のみならず、芽吹きや花など四季の楽しみとともに保全・育成する。

2) 広域景観育成の基本方針

2-1 広域景観を育成するための主要な取組(眺望、景観拠点、景観軸)

- ① エリアを代表する、活かしたい眺望景観
 - ・丘陵や高台から善光寺平を望む高低差を体感する眺め(善光寺平とそれらを囲む北信五岳などの山々、北アルプス)(坂田山共生の森、JR姨捨駅、小布施温泉あけびの湯、塩野の棚田 等)
 - ・千曲川沿いの橋梁、公園、サイクリングロードなど河川沿いから盆地と山並みを望む眺め(例:大正橋、千曲公園、千曲川河川公園 等)
 - ・交通軸から連続的に望む景観(例:新幹線、鉄道各線の車窓景観、国道403号と千曲川展望公園 等)
- ② 景観のまとまり(歴史・文化、まち、交通軸が集積する善光寺平)における広域景観育成を推進する
 - ・善光寺平を前景に山並みを望む視点場の滞留空間の整備や案内サインの整備、眺望支障物の撤去、夜景など特徴的な眺望景観の保全
 - ・盆地を囲む丘陵地の景観の保全・育成(地形に寄り添う田園集落や果樹栽培の風景の保全・活用、建築物・工作物(太陽光発電施設・電力施設の鉄塔等)等の誘導
 - ・善光寺と各地を結ぶ街道筋や千曲川、広域交通など、エリアをネットワークする要素を活かした景観誘導(既存の取組との連携、エリアの共通イメージをつくる統一サインの整備、公共事業における質の高い景観形成)
- ③ 景観拠点における景観育成と拠点を結ぶ景観軸における沿道景観の育成
 - ・景観拠点とその周辺における、インバウンドへの対応も含めた建築物や広告物のルールづくり
 - ・景観軸の対象路線:街道筋と重なる区間も多く、エリアをネットワークする幹線道路
⇒国道18号、19号、403号、406号 など
 - ・沿道のシークエンス景観とともに特に眺望の美しい区間や眺望スポットの育成
 - ・建築物や屋外広告物の ルールづくり、統一サインの整備
 - ・景観軸として公共施設の質の向上(景観重要公共施設、デザイン協議等)
 - ・巡りを促すハード・ソフトの取組を展開

2-2 エリアが有する景観資源を活かしたエリアブランディング

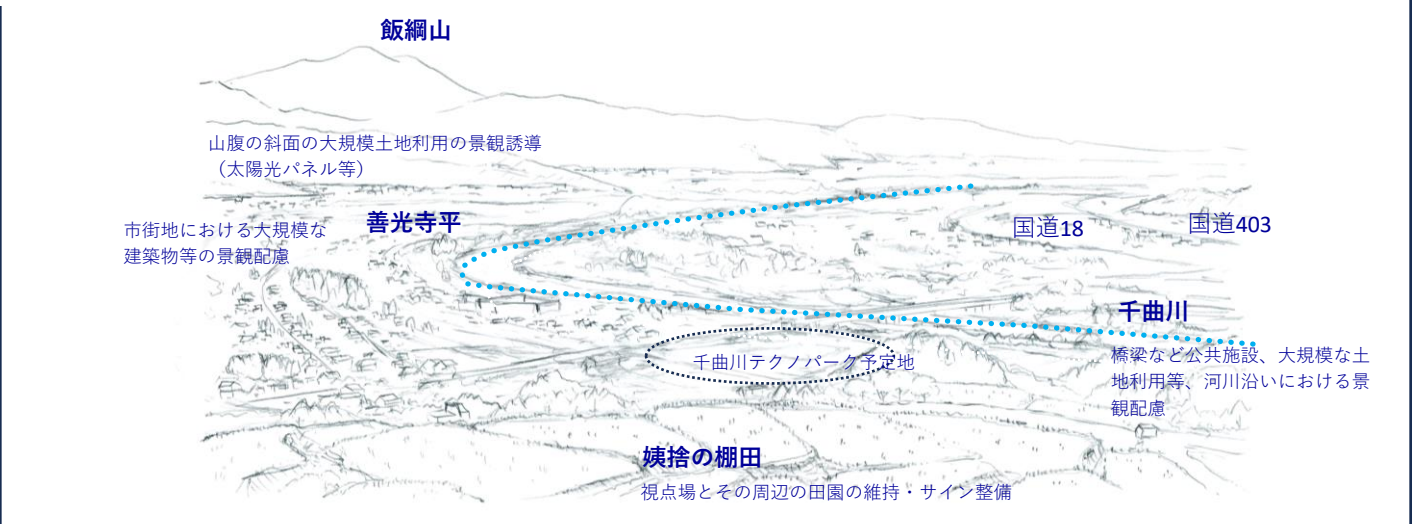
- ① 住民を主体とした生活環境や自然・田園環境等の維持向上
 - ・身近な生活環境や歴史・文化などの地域固有の景観の保全・創造に活用されてきた既定の住民協定や活動の支援、担い手育成
 - ・住民や団体と連携した歴史文化的資源や河川・水辺、自然環境の保全活動
- ② 歴史的資源や農業等を活用したブランディング
 - ・景観資源活用の情報交換や協力体制構築の場づくり(資源のリスト化やエリア統一の情報発信など)
 - ・県内随一の果樹栽培と連携したエリア振興策の検討(芽吹きや花、水の張った水田など四季も通じた魅力の発信、産地とセットでブランディング、ツアーへの活用など)
 - ・見るだけでなく、食などの五感、移動やアクティビティとも一体となった景観体験の構築

広域景観エリアの景観育成方針図



景観構造 (ゾーン・拠点)	広域景観を育成する眺望・景観軸	交通
- 山岳ゾーン (自然公園地域) - 山麓・山間ゾーン (保安林/地域森林計画対象民有林) - 田園ゾーン (その他地域) - まち・生活ゾーン (市街化区域・非線引き用途地域)	- 活かしたい眺望景観 - 重要な景観のまとまり - 重要な景観軸 - 景観軸	- 主要な道路 (国道・広域農道等) - 高速道路 (計画は点線表示) - JR 線 - 街道 主な資源 - 主な湖沼・河川 - 主な山 - 重要文化財等

眺望景観を活かした景観育成イメージ



北信広域景観エリアの景観育成方針

中野市、飯山市、山ノ内町、木島平村、野沢温泉村、栄村

1. 北信広域景観エリアの景観特性

○地形的な特徴と眺望

- 県の最北端に位置し、エリア全体で千曲川沿いの扇状地と周囲を囲む山並みをベースとしたまとまりのある景観が形成され、随所から高社山や北信五岳、千曲川と一体となった市街地や集落、田園風景を望むことができる。
- 志賀高原、斑尾高原など、東部山岳地帯は、ほぼ全域が上越高原国立公園に属している。高社山より北は最深積雪が2mを超える全国有数の豪雪地帯であり、四季折々の変化に富む景観を有する。
- 高社山はエリアのシンボルであり、「たかやしろ」、「高井富士」など愛称で呼ぶ地域もある。田園集落を前景に平地から高社山を望む景観、山頂付近から集落や河川・田園・周辺の山々を見下ろす景観のいずれも親しまれている。

○道路・交通(交通景観軸)

- 古くは信濃国稲荷山(長野県千曲市)～信濃国飯山(長野県飯山市)に至る谷街道をはじめ、現在のJR 飯山線、国道117号、292号など、河川沿いに主要な交通軸が形成されている。
- 国道117号沿道は、花々(花街道)や千曲川、その周辺に広がる里山を望む沿道景観が形成されている。

○河川・水辺(河川軸)

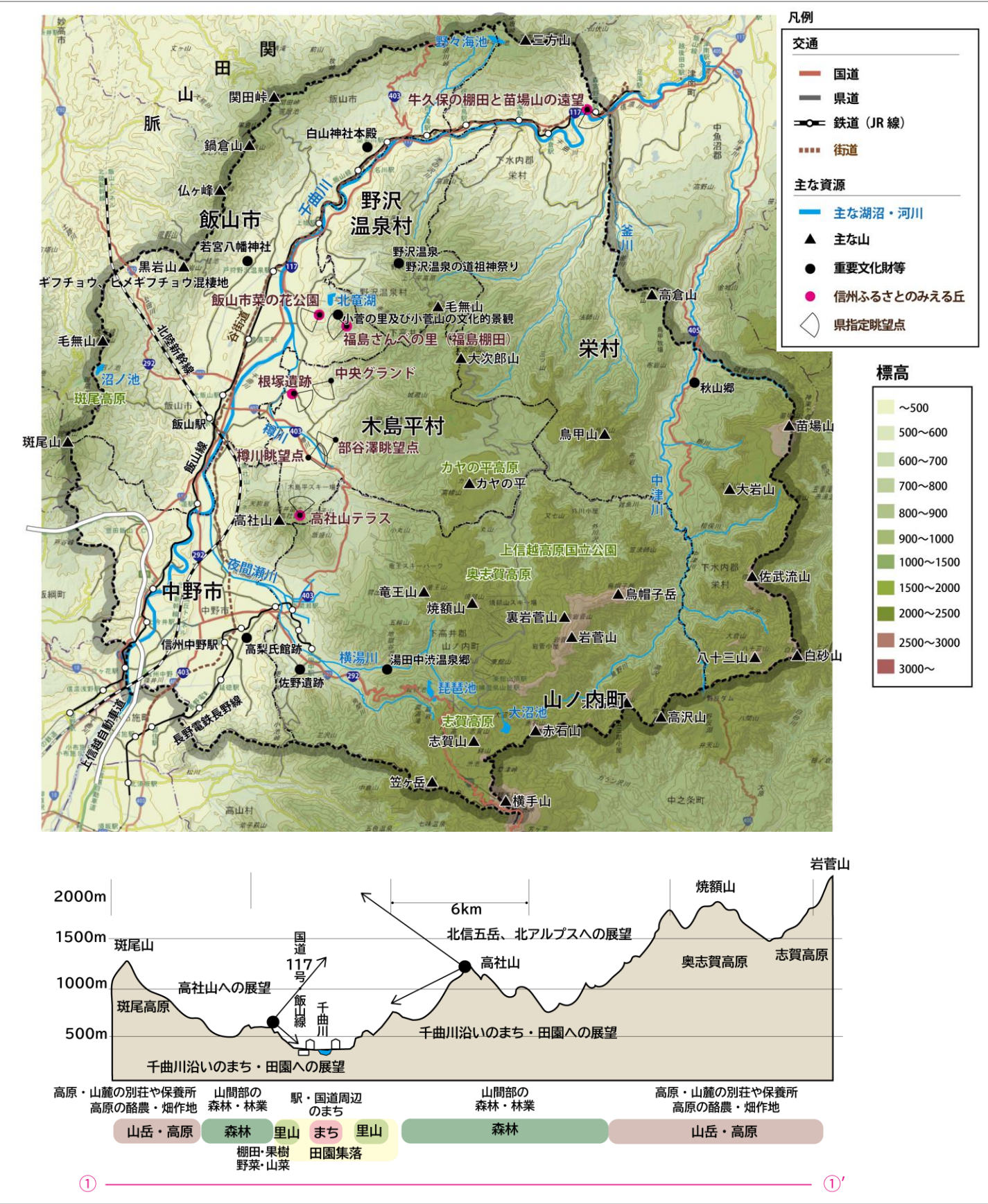
- 千曲川が骨格的な軸を形成しており、川と市街地、田園風景が一体となった景観が形成されている。また、沿川自治体が協働し、親水環境整備や水辺アクティビティの充実、広域観光ルートの構築などに取り組んでいる。
- 夜間瀬川をはじめとする河川が千曲川に流入し、河川や用水、池沼、滝、湧水など多様な地形がもたらす水の景観が随所にみられる。龍興寺清水(平成の名水百選)をはじめとする湧水は暮らしの中で親しまれている。

○歴史・文化(歴史・文化的な景観)

- 飯山市の寺町や小菅地区等の神社仏閣、湯田中渋温泉郷や野沢温泉などの温泉郷など、固有の歴史・文化を有する。
- ふるさとの原風景が残る恵まれた自然環境を有し、中山晋平や高野辰之「故郷」「朧月夜」に歌われた里山の風景など唱歌の世界に由来する景観が数多く残されている。
- 道祖神祭り(野沢温泉村)、黒岩山のかまくら祭り(飯山市)など、気候風土に根付いた祭礼・行事が行われている。

○産業の景観

- 飯山仏壇、内山紙、中野土人形、栄村つぐらなど伝統的工芸品を造る地場産業に加え、千曲川が形成する扇状地や周辺を縁取る山地に沿って水田や果樹栽培などの耕地が分布し、野沢菜などの伝統野菜、きのこや山菜、りんご、ぶどう、もも、プラム等の果樹、アスパラガス等野菜や米、高原の畜産やソバ、シャクヤク等の花きなど多様な農業が展開されている。
- 志賀高原や斑尾高原、カヤの平高原などの山岳高原、秋山郷などの豊かな自然環境、湯田中渋温泉郷や野沢温泉、エリアに多数あるスキー場など豊富な観光資源に恵まれた県内有数の観光エリアである。



大切にしたい特徴

高社山、北信五岳をはじめとする山々への眺望／千曲川とその周辺の交通軸(国道117号)が形成する沿道景観／湯田中渋温泉郷や野沢温泉などの温泉郷／日本を代表するふるさとの風景(唱歌の世界)／変化に富んだ地形に寄り添う農業(きのこ・山菜、果樹、水田、ソバなど)／秋山郷、志賀高原、苗場山など四季を通じて楽しめる豊かな自然

主な視対象(広域的な景観要素)

- ・高社山
- ・北信五岳(妙高山、黒姫山、飯縄山、戸隠山、斑尾山)
- ・千曲川
- ・山並みに囲まれた千曲川周辺の市街地、田園集落
- ・扇状地や山麓の水田や果樹等の栽培風景
- ・鉄道(飯山線・新幹線)
- ・秋山郷、苗場山、高原などの自然景観



千曲川・花の里風景街道・国道117号(栄村、野沢温泉村、飯山市、中野市)



蛇行して流れる千曲川と田園(栄村)



野沢温泉・大湯(野沢温泉村)



田園集落と山々への眺め(木島平村)



小菅の里及び小菅山の文化的景観(飯山市)



田園集落を前景に望む高社山(中野市)



湯田中駅と楓の湯(山ノ内町)

2. 北信広域景観エリアの育成方針

1)広域景観育成の基本目標

- ① 南北を縦断する千曲川と交通軸(国道117号、飯山線)は、広域的な移動の軸、エリア内の景観育成の拠点へのアプローチ軸として、魅力を高めるとともにエリア内のまとまりが感じられる景観を創出する。
- ② シンボルである高社山、北信五岳への眺めは、その前景となる田園・集落の美しさとともに保全・育成する。
- ③ 県内外、インバウンドの来訪者に親しまれ、観光資源としても重要な場所や資源を周囲の景観と調和するよう、良好に保全・創造するとともに、これらをネットワークし、エリアを巡る楽しみを育成する。

2)広域景観育成の基本方針

2-1 広域景観を育成するための主要な取組(眺望、景観拠点、景観軸)

① エリアを代表する、活かしたい眺望景観

- ・千曲川沿いの田園集落を前景に平地から望む高社山、北信五岳への眺望景観(例:中野市たかやしろ・見晴らし街道、飯山駅ホーム、千曲川沿いの田園地帯)
- ・千曲川沿いの橋梁や公園などの眺望スポットから飯山盆地を望む眺め(例:中央橋、飯山市菜の花公園)
- ・山々や高台から望む飯山盆地とそれらを囲む山並みから成るまとまりのある景観(例:高社山テラス)
- ・鉄道(飯山線・新幹線)から連続的に望む景観(例:新幹線、飯山線の車窓景観)

② 「高社山麓・千曲川下流域景観育成重点地域」(当初指定地域)内の景観育成

- ・県と市町村(景観行政団体、未移行自治体)間での方向性の共有、景観形成基準の調整
- ・飯山盆地に広がる田園集落、山麓の果樹栽培の風景の保全・活用(重要な景観軸:千曲川と交通軸(国道117号、飯山線))
- ・重要な景観軸とその沿道の建築物・工作物や屋外広告物のルールづくり、統一サインの整備、公共事業における質の高い景観形成

③ 景観拠点及び景観軸(重要な景観軸と拠点を結ぶ軸)の景観育成

- ・景観拠点とその周辺における、インバウンドへの対応も含めた建築物や広告物のルールづくり
- ・山岳高原エリア、秋山郷などの豊かな自然環境が広がる拠点は、入口や来訪者が多く利用する施設周辺のサインや施設の良好な維持・創出
- ・主要な交差点、橋梁などポイントとなる場所の景観整備、沿道の道路付属物等の景観配慮

2-2 エリアが有する景観資源を活かしたエリアブランディング

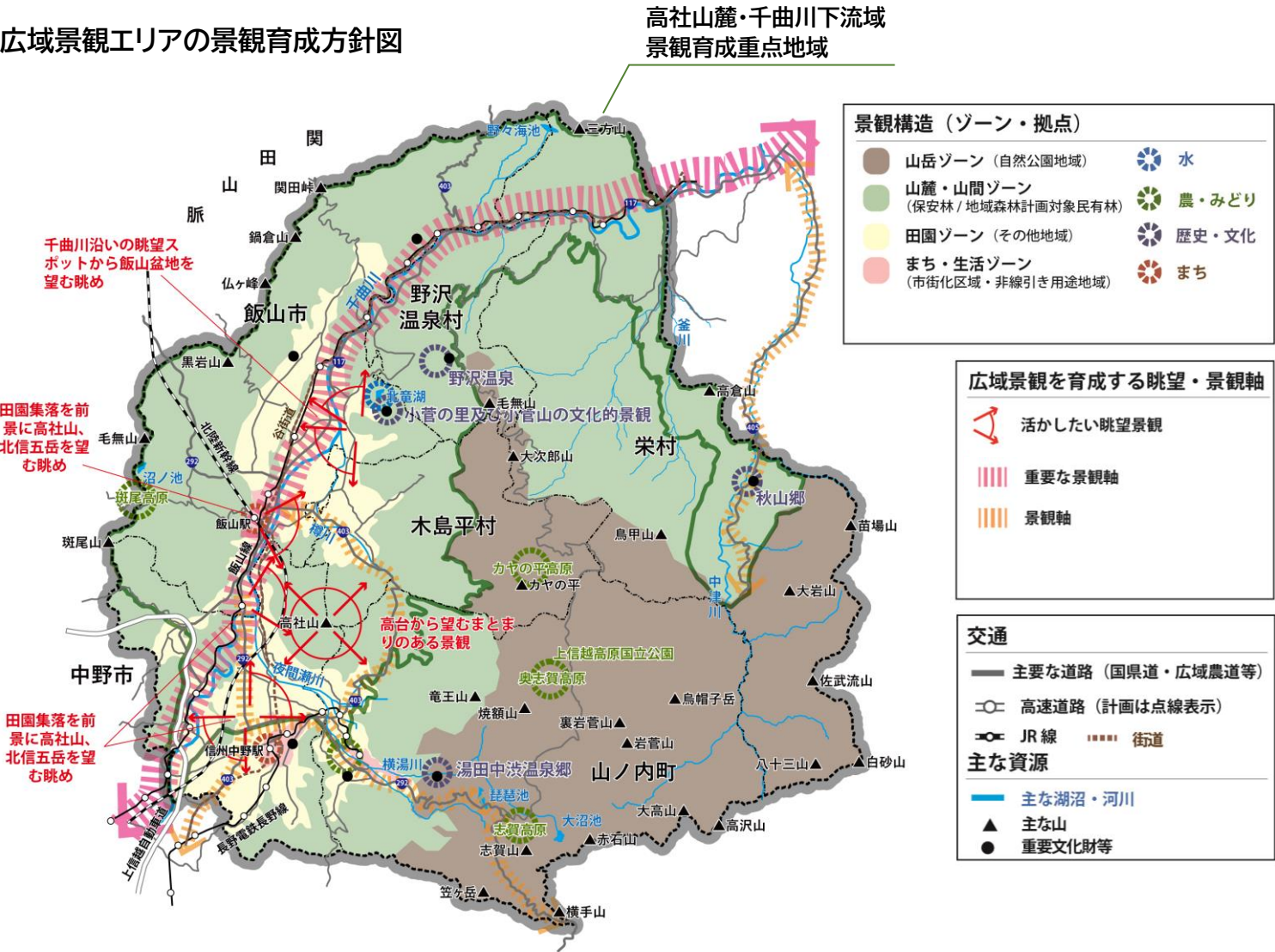
① 住民を主体とした生活環境や自然・田園環境等の維持向上

- ・住民協定や住民主体の活動の支援、担い手育成(身近な生活環境(市街地、集落地)や歴史・文化的町並みや自然・田園などの保全・創造)
- ・重要な景観軸や景観軸における沿道景観づくり(拠点や交差点付近の花やみどり、案内サイン整備等)

② 歴史的資源や農業等を活用したブランディング

- ・景観資源活用の情報交換や協力体制構築の場づくり(資源のリスト化やエリア統一の情報発信など)
- ・豪雪地帯ならではの四季、スキー場・ウィンタースポーツ文化のエリア統一のイメージづくり、情報発信
- ・飯山仏壇、内山紙、中野土人形、栄村つぐらなど伝統的工芸品を造る地場産業を活かした景観(町並みや産地の維持・保全、建築物やサインへの技術活用など)
- ・水田や果樹栽培、野沢菜などの伝統野菜、きのこや山菜など、多様な特産物と景観を結びつけるエリア振興策の検討(産地とセットでブランディング、ツアーへの活用など)

広域景観エリアの景観育成方針図



眺望景観を活かした景観育成イメージ



眺望景観を活かした景観育成イメージ



第6章 長野県景観育成ビジョンの推進体制

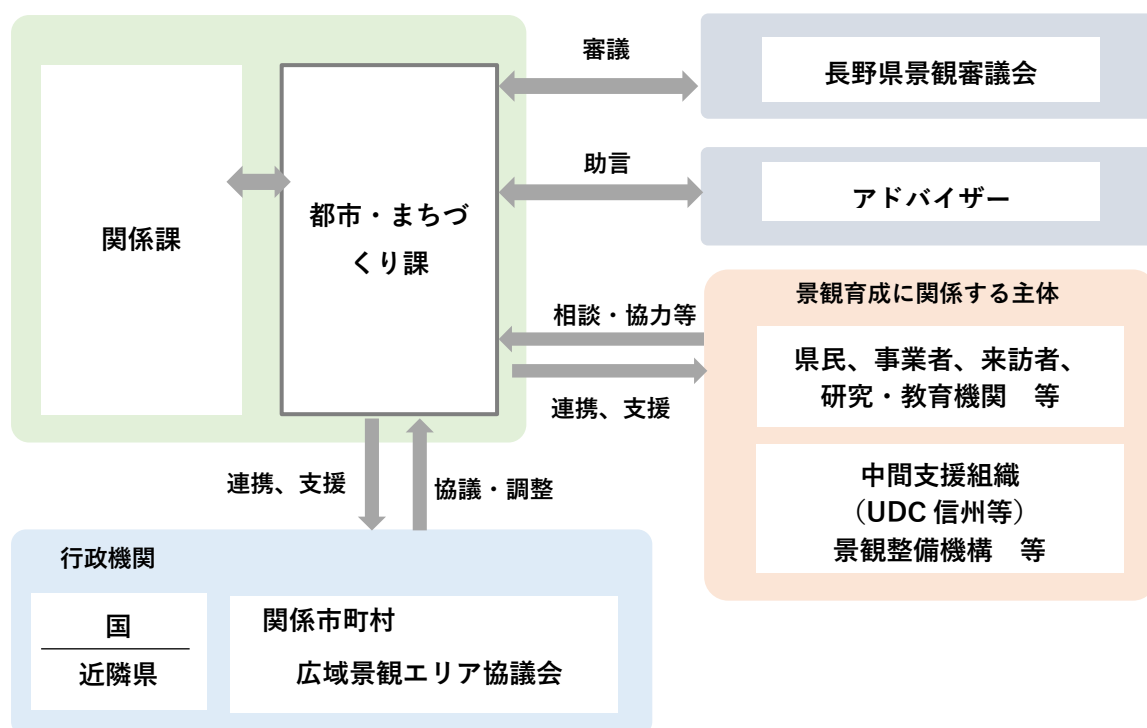
6-1 推進体制

(1) 長野県景観育成ビジョンの推進体制の全体像

長野県景観育成ビジョンの推進にあたっては、関係機関との横断的な体制を整え計画的に進捗管理を行います。

長野県景観育成ビジョンに基づく事務事業の実施にあたっては、長野県と関係する主体と連携しながら、国や近隣県などの広域行政機関、関係市町村と連携を図り事業を実施します。

図 長野県景観育成ビジョンの推進体制



(2) 景観審議会

長野県は、景観の育成に関する重要事項について調査審議するため、長野県景観条例第 34 条に基づき、景観審議会を設置しています。景観審議会は、県知事の諮問に応じて、以下の事項のほか、景観の育成に関する重要事項を調査審議することとし、学識経験者等の 15 人以内の委員をもって組織しています。(委員の任期 2 年)

(3) 専門委員

長野県は、専門の事項を調査するため必要があるときは、長野県景観条例第 39 条に基づき、専門委員を設置することができます。専門委員は、県知事の諮問に応じて、以下の事項を審議することとし、学識経験者等の委員をもって組織しています。

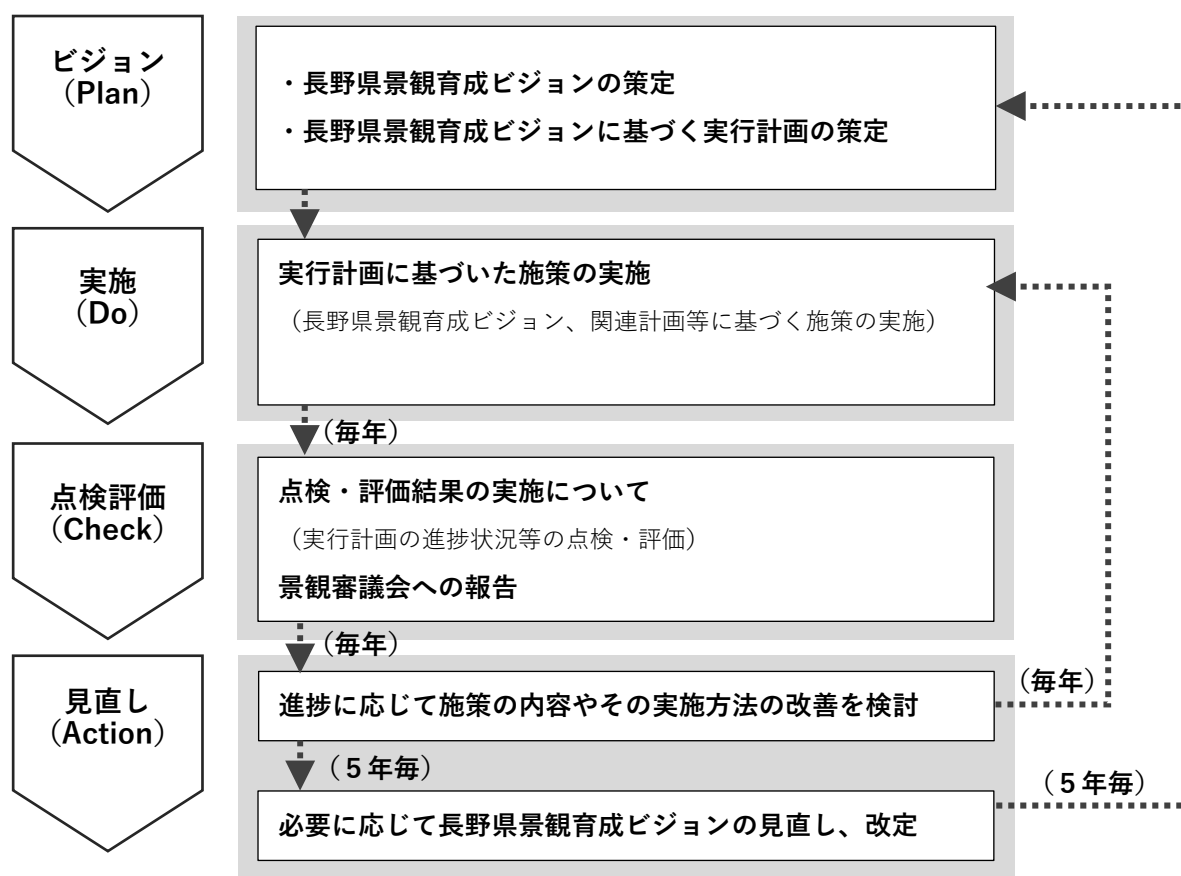
6-2 進捗管理の方法

(1) PDCAサイクルによる進捗管理

長野県景観育成ビジョンの運用にあたっては、PDCA サイクルの考え方に基づく進捗管理を行いながら計画的な取組を推進します。

長野県景観育成ビジョンの実現のため実行計画を作成し事業管理を行っていくこととしますが、定期的な進捗管理を行いながら長野県景観審議会への状況報告を行うなど実効性が高まる進捗管理に努めます。

図 景観育成ビジョンの進捗管理の流れ



(2) 実行計画の作成

長野県景観育成ビジョンで掲げる基本理念・ビジョン・役割分担等を踏まえ、短中期的に達成する目標とその実現に向けた戦略や具体の施策を打ち出す実行計画を作成し、計画的に推進します。

景観育成に直接関連する事業と間接的に関連する事業とに整理を行い、実行計画を作成します。なお、事業の進捗等により追加削除が必要となるため、実行計画はビジョンとは別冊とし進捗管理を行うものとしします。

長野県景観育成ビジョン

作成：長野県 建設部 都市・まちづくり課